

平成 29 年 2 月 24 日

新潟市中央区自治協議会
会 長 豊嶋 直美 様

新潟市中央区自治協議会
拠点と賑わいのまち部会
座 長 浅野 昌禧

「『 “なつかしき未来の街” 未来に備えた地域のにぎわい創出・活性化フォーラム』
報告書」の提出について

標記の件について、別添のとおり実施報告書を作成いたしましたので、提出いたします。

“なつかしき 未来の街”
未来に備えた地域の
にぎわい創出・活性化フォーラム

報告書



日 時 平成 28 年 11 月 27 日（日）13:30～16:30

会 場 クロスパルにいがた 4 階 映像ホール

主 催 新潟市中央区自治協議会（拠点と賑わいのまち部会）

“なつかしき 未来の街”

未来に備えた地域のにぎわい創出・活性化フォーラム

報告書

目次

1. 開会あいさつ
中央区自治協議会 会長 豊嶋 直美 氏 4
2. 基調講演
「ぶらっと新潟 にぎわいのまち」
旅するイラストレーター 木原 四郎 氏 5
3. 提案報告
中央区自治協議会 浅野座長 岩田委員 14
4. パネルディスカッション 25
「未来に備えた地域のにぎわい創出と活性化」
パネリスト：松井 大輔 氏（新潟大学工学部 助教）
：高岡 はつえ 氏（沼垂テラス商店街 店舗統括マネージャー）
：相楽 治 氏（NPO法人 新潟水辺の会 代表）
コーディネーター：津吉 孝司 氏（中央区自治協議会「拠点と賑わいのまち部会」委員）
オブザーバー：木原 四郎 氏（旅するイラストレーター）
5. 閉会あいさつ
中央区自治協議会「拠点と賑わいのまち部会」副座長 佐藤 豊 氏 . . . 54
6. アンケート集計結果 55
7. おわりに 64

“なつかしき 未来の街”

未来に備えた地域の にぎわい創出・活性化 フォーラム

日時 平成28年11月27日(日)
13:30～16:30 (開場13:00)

会場 クロスパルにいがた 4階 映像ホール
(新潟市中央区礎町通 3ノ町 2086)

入場無料
先着150名

プログラム (予定)

基調講演

「ぶらっと新潟 にぎわいのまち」

木原 四郎氏(旅するイラストレーター)

パネルディスカッション

～未来に備えた地域のにぎわい創出と活性化～

パネリスト

松井 大輔 氏(新潟大学工学部 助教)

高岡 はつえ氏(沼垂テラス商店街 統括マネージャー)

相楽 治 氏(NPO 法人 新潟水辺の会 代表)

コーディネーター

津吉 孝司 氏(中央区自治協議会「拠点と賑わいのまち部会」委員)

オブザーバー

木原 四郎 氏(旅するイラストレーター)

来場者の方には、木原氏
のオリジナル絵はがきをプ
レゼントします!

木原 四郎

1946年、佐賀県佐賀市生まれ。
イラストレーターとして新潟県内を訪ね
歩き、風景や人とのふれあいを描いてき
た。現在、NHK新潟放送の旅番組「き
らっと新潟・イラスト紀行」に出演。
やわらかなタッチと色彩の作品が多く、企業の情報誌や観光パン
フレットなどのイラストを手がける。各地で個展も開催。



お問い合わせ：中央区自治協議会事務局 (中央区役所地域課)

〒951-8550 新潟市中央区学校町通1番町602-1 TEL 025-223-7023 (直通) FAX 025-223-3660

主催 新潟市中央区自治協議会



1. 開会あいさつ

中央区自治協議会 会長 豊嶋 直美 氏



皆さま、本日はご多用のところ、中央区自治協議会が主催する「未来に備えた地域のにぎわい創出・活性化フォーラム」にご参加いただきまして誠にありがとうございます。私は当自治協議会会長の豊嶋直美と申します。よろしくお願いいたします。

区自治協議会は区民と行政が協働した、地域課題の解決や地域の特色あるまちづくりを進めるために各区に設置されている新潟市の附属機関です。平成19年に新潟市が政令指定都市に移行すると同時にスタートして本年で10年目を迎えております。委員はコミュニティ協議会や各種団体からの代表、学識経験者、公募委員などで構成され、中央区自治協議会は現在38名の委員で構成されています。毎月、全体会議、専門部会などの活動を活発に行っております。

本日は、拠点と賑わいのまち部会が中心に企画した「未来に備えた地域のにぎわい創出・活性化」について、中央区の未来像を提案いたします。

基調講演では、旅するイラストレーターとして、NHK新潟放送の旅番組『きらっと新潟・イラスト紀行』に出演しておられる木原四郎先生からお話をいただき、その後、パネルディスカッションでは、まちづくりを意欲的に取り組んでおられるパネリストの皆さまからお話をいただく予定になっております。

皆さま、ご存じのとおり、中央区は政令市新潟の中心部に位置し、多くのヒト、モノ、情報が行き交う地域であります。一方で、歴史、文化、自然を有する魅力的な地域です。これまで先人が培ってこられた良き伝統の上に未来に向けて素晴らしいまちづくりが期待される所です。

本日のフォーラムは、「未来のにぎわい創出・活性化」に向けたまちづくりをお考えいただく機会と捉えていただければ幸いです。

以上、簡単ですが開会のあいさつとさせていただきます。

2. 基調講演

「ぶらっと新潟 にぎわいのまち」

旅するイラストレーター 木原 四郎 氏



皆さん、こんにちは。

イラストレーターの木原四郎と申します。イラストレーターって分かりますか。分かりますよね。イラストを描く人です。イラストといっても、いろいろあって、今は何でもイラストと言っていますが、イラストは照らし出すという意味です。だから、そもそもの語源は医学書などの本の中に挿絵として描かれているものです。そういうものをイラストと呼んでいて、挿し絵を描くということです。それがずっと広まって、今は絵のことを何でもイラストといいます。元々は挿し絵を指しているのです。

私はNHK新潟放送の「きらっと新潟」という旅番組シリーズがあり、その中でイラスト紀行シリーズを担当しています。これで14年目です。テレビ番組で14年目というのは、実をいうともものすごいことなのです。毎週やっているわけではなくて、年に4回しかやっていない。たまにやるのです。年4回ということは春夏秋冬、四季にそれぞれ1回ずつやるのです。

別に難しいことをやるのではなく、担当の地区へ行って、いろんな人に会って、お話を聞いて、どういう生き方をされておられるか聞いて、たまにおいしいものを食べて放送する。絵を描くのはその場ではありません。時間がないので家に帰ってから。そのとき、写真とメモをとって全部押さえておいて、うちへ帰ってから描くのです。28分のテレビ番組ですが、NHKさんはものすごく写真を撮るのです。1週間ぐらいロケに行くのですが、いろんなものを撮るのです。そして、ほとんどカットされる。カットという言い方はおかしいかな。調整されて番組が構成されます。だから、自分がテレビカメラに入ったから必ず放送されると思われると困るのです。全部カットされますから。だから放送日もはっきりは言わないのです。

「いつごろ出るの」と聞かれるのですが、だいたい今月末とか、20日過ぎとかそういう言い方をします。NHKというのは、放送が決まってもニュースや事故、事件があると、そう

いう番組はカットされます。特に地震が起きるとパッとなくなってしまいます。だからはっきり言えないのです。

今のところ、なくなったのは中越沖地震のときで、完全になくなりました。せっかく撮って楽しみにしていたのに。もちろん、地震ですから、テレビを観ている時間はないですから、カットされました。何か大きなことが起きるとカットされる番組ですから、僕のお話もそんなに難しい話じゃない。別にメモなんてしなくていいですから、耳だけで聞いてください。

後からスライドで、そのときに描いた絵を映します。私は絵しか描けなくて、ほかのことが何もできないのです。子どものときから絵ばかり描いていて勉強はちっともしなかった。「おまえどうすんだよ」と先生からいつも言われていて、「絵ではご飯は食べられないよ」と。先ほど司会の方が言われましたが、私、古希、70歳になりました。昭和21年に生まれたのですが、当時は絵でご飯を食べることはできないと言われていました。学校の先生も「絵なんかやっても仕方ないんだよ」と言っちゃう。

今は、新潟市で漫画館をやっているんだものね。あのころ、学校の先生は全員が僕のことを否定しました。「おまえはバカだから、勉強しなきゃ駄目だ」と言われたけど、僕は勉強しないで絵ばかり描いていました。絵というか、漫画のようなものですけど。

映画館に行って観たものを全部漫画にする。絵にするのです。それをクラスみんなに見せるのです。みんなは映画を観に行ったような気になるのです。あのころの娯楽といえば映画でしたから、映画館に行かなくても木原の絵を見ていればそれでいいと。だから、僕はクラスの人気者だったのです。

描くのは、これはクラスの誰々に見せるのだという目的があるわけです。だから、描いていて楽しくてしょうがない。それを求められているときが一番楽しいので、徹夜で描くのです。今の漫画家さんは締め切りに追われて描くのでしょうけど、あれは徹夜ができるのです。できあがってから、みんなの喜ぶ顔が浮かんで、ああ気持ちよかった、と。それが今の私になっているのです。人を喜ばせることだけに生きてきた感じですが。だから人から頼まれると何でもやってしまいます。お金なんか要りません、なんて。今はそういうわけにいかない。それで食べていますから、少しお金をいただくのですが。

あまりお金のことを言うな、というのは私の師匠からの申し渡しです。「いいか、おまえ、絵で食っていくのなら、絶対お金は後回しにしなさい」と言うのです。どういうことですかと聞いたら、「結局、自分の持っている技術でもうけようと思わない。描いたらただけるものはいただきなさい。そういう形で絵を描きなさい」と言われています。今、絵を描いてもそんなにたくさんはもらわない。だいたい予算内で収めるように心がけておりますが、な

かなかそういうわけにいかない。税金も払わなきゃいけないし、食っていかなきゃいけないので、少しくささい、といつもお願いします。

そういうやり方なので、たくさんのお金がドーンと入ってくると、かえって困るのです。新潟市の税金も満足に納められないときもあります。何とか少しでも、描いたものがお金



になればいいと思うのですが、師匠からそう言われているのに、お金もうけができません。それでも食って生きていますので、いいかなと思っています。

それでNHKの仕事をいただいています、テレビで最初に 14 年前にいただいたとき、果たしてそういうものが番組になるのかが一番心配でした。「何とかなるでしょう」「とにかくテスト的にやりましょう」と。ロケに行って、人に会ってそれを絵にしてくださいというのです。

その絵にしたって、テレビで実際の風景を見るのだから、別に絵で描かなくてもいいかなと思ったのです。それでも何とかやれるかも、1回だけやってみようというので、1回だけやったら、結構、好評で「次もやりましょう」となって14年目になってしまった。面白いですね。別にこっちで思ったわけじゃないのに14年も続いてしまった。

ところで、この番組を観たことがある方、いらっしゃいますか。よかった、いらっしゃる。じゃ、話は分かりますね。あれは1週間もロケに行くのです。さっき言ったようにほとんどカット。そして編集して、番組として編集し直すのです。ああいう映像作品というのは、編集でどうにでも雰囲気が変わるのです。私は出ているだけで、どういう映像になるのかは全く分からない。ここがポイントかなと力を入れてインタビューして、すごくいいお話を聞いたと言うのだけれども、あまり面白くない。良い話だと思うけれども、テレビに映すと意外と面白くない。

それから、何だかつまらないとか、ただカメラで回しただけだったけど、実際に編集して画面に出すとなかなかよろしい。そんなことがいっぱいあるのです。こちらが思っているような感じではないのです。これが14年続いているのです。自分でも全然分からない。そこに行って、いろんな人に会って、お話を聞いて、そうですか、いいですね、あはは、なんて言って笑っているだけです。そんなに難しい話を聞いていないのです。難しい話を聞いても相手は素人ですから。私も素人といえば素人ですから、劇的に、ドラマチックに盛り上

げることができない。ただ淡々とやるしかないということです。そこが面白いのか、自分でもまだ分からないのです。テレビというのは、そういうものかなと思っています。

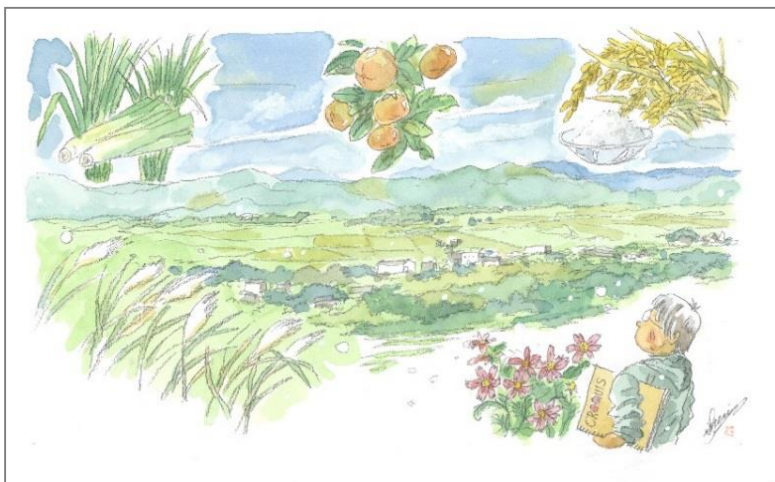
そろそろスライドを映す時間です。これは私が描いた絵を画面に映すのですが、そのとおりではないのです。絵というのは、番組によって変えます。ただし、出る人は似顔絵で描かなければいけない。ストーリーは全然違う感じで作ってしまいます。全部ディレクターから、「これをああして、こうして」と注文が入るのでそれを描くのです。だから、描く時間がない。今日描いて、2日後に本番を描いてくださいという、スピードが要求されます。短い期間で描くので、相当描けないと成り立たない。

自分ではうまいと思っていないのですが、要はすぐ描けるという変な特技があるのです。面白いですね。言われたら、頭の中でパパッと描いてしまう。だからすぐに描ける。これは才能と言うしかないですね。

これで金もうけがうまければ言うことはないうちの女房が言っています。絵だけはパパッと次のシーンが浮かぶのです。それをパパッと描いて、ラフスケッチを起こして見てもらう。今度の絵も、パパッと描いた絵です。簡単に描いていますから、油絵のようだとか、リアルに描くとか、そんなことはしません。時間がないから、少ない時間で少ない絵の具で短時間で仕上げる絵なのです。

早速それを見ながらお話ししたいと思います。

これは先月、10月21日に放送された一番新しい番組でつくったものです。柏崎刈羽へ行ったときの絵です。番組は28分ぐらいで、絵を4枚描きます。これは表紙となるシーン。刈羽村はご存じのように原子力発電所があるところです。原子力発電所を絵にしようかどうかと思ったけど、今、物議を醸しているので、できない。だから、そうではないものを描こうということで、高台に上って刈羽村全体を見渡したときの絵です。



山がスーッとあって、平地があって刈羽村全体が見えます。それを僕が、ここに出ている。ススキがあったり、コスモスがあったり、全体の風景が出ます。今回、番組で出るものを象徴的に描きます。

いつも人物が多いのですが、今回は物を描きます。刈羽村の県道73号線をめぐる旅というタイトルがつい

ています。米粉で何かつくっていらっしゃる方のところへ行っただけです。あそこは柿が有名です。この植物はマコモダケというもの。田んぼをやめたところに、マコモダケという南米かどこかの植物ですが食べられるのです。根元の部分をスライスして食べるのです。それが番組の主題でしたので、パツパツと浮かんでいる感じで描いています。薄い透明絵の具の水彩でチャチャチャと描いていますので。プランが決まれば描くのは早い。だいたい4枚描くのですが、1日か2日で仕上げます。

同じく柿の産地へ行ってきました。この方は柿を生産されている方で、後ろは従業員の方。柿がパーツとなっている。テーマは、光がパツと出て柿を育てているというナレーションがあるわけです。そこでそのシーンを描いてくれと。あそこは神楽を踊っているお祭りがあったのでそのシーンも描いてくれと。それを描いてみました。私はここにいて太陽を見上げている。吹き出しなどを交えてね。



僕の絵は必ず吹き出しが入ります。昔の漫画家で滝田ゆうさんがいらっしやいました。その方の漫画は吹き出しがあったので、それを僕はまねしています。滝田ゆうさんは亡くなりました。

生産者が柿を持っていて、太陽の光で柿がピカピカ光っている。顔もよく似ているんです。後ろのおばちゃんたちも、そのときに出た人です。女性を描くときはすごく気を使う。あまりリアルに描かない。お気が悪くなりますから、3つぐらい若く描いてあげて、しわはあまり描かない。ニコツとした笑顔で描いてあげる。

ところが男性はどうしてもリアルになってしまう。女性も似ていますが、あまり細かくは描いていない。女性の方は、できるだけすてきに描いてあげないと、気を悪くされちゃいますから。女性はきれいに描くようにしています。

ところが男性はどうしてもリアルになってしまう。女性も似ていますが、あまり細かくは描いていない。女性の方は、できるだけすてきに描いてあげないと、気を悪くされちゃいますから。女性はきれいに描くようにしています。

次はマコモダケ。マコモダケがどうやって育てているかを絵にしてくれということでした。山の上に森の池がありますので、隧道を通して、それが田んぼに水が流れていて、その水でマコモダケをつくっているというのを絵にしてくださいと。だから3つ、全部入っているの



です。隧道というのは、農家の方がこれを掘られたので掘っているシーンがあります。そしてマコモダケを料理する。これがマコモダケの茎の部分です。これを料理して女性たちが出してくれるというシーンも入っています。

このマコモダケは泥水の中で、大変なんです。入ってしまうと足が動

かない。僕は素人ですから、埋まってしまって何もできない。テレビ局のほうは一切教えないで、私にやらせるのです。ほんとうは教えてほしかった。テレビに出るので格好よく映りたいじゃないですか。こうなるのを知らないから、かっこよくやるんですよ。ところが、格好も何も、こうなったら何もできない。それがテレビ局の狙いなんですね。やっぱり嫌です。

女性もそう。これは別の話ですが、女性の方もそうなんです。ラーメン屋で撮りますということになっていたんだけど、前日、ロケハンで行って、当日ロケに行ったら、きれいにお化粧されていて。ラーメン屋のおばちゃんですが、美容院に行かれて髪の毛もセットされていて、きれいになられていた。気持ちは分かりますよ。テレビに出るんだもの。普段の格好よりはきれいにしたい。そこのラーメンは燕のラーメンでした。

燕のラーメンは脂ギトギトの背脂ラーメンです。お店も、床がギトギト、テーブルもギトギト、みんなギトギトでそれが売りなのです。それなのに、おばちゃんはきれいに化粧をされていたということがあった。もっと汚くしてくださいと言えませんが、すみませんと言って、ちょっとお化粧を少し薄くしていただいた。

テレビは、ハイビジョンに変わった時期で毛穴まで見えるんです。ハイビジョンは怖いですよ。ほんとにアップにすると毛穴や鼻毛まで見える。だから駄目なんです。化粧をしているところもきれいに見えてしまう。お化粧が見えすぎるので、かえっておかしいから少し落としてくれとちゃんと言う。髪の毛もセットしたのをほつれさせて、頑張っている感じを出したのです。このようにテレビは作り物なのです。

だから、100%信用してはいけません。そう思って観てください。ある程度、カメラや雰囲気に合わせてつくります。それを分かって観ていただければいいと思います。

これも女性の方たちが、マコモダケを利用していろいろつくってくれました。食べ物のロケというのは実は大変なのです。「まずい」と言えない。そうでしょ。ちゃんをつくってく

れたんだから。だいたいおいしいんですが、中にはそうじゃないものもあります、正直言って。

食べてみて、「まずいな」と言うと失礼にあたりますから、「なかなかスカッとした感じですね」と言ったり、訳の分からないコメントを言うのです。スカッとしているねとか、奥が深いすねとか。そういう言い方をするときには、あまりおいしくないんだなと思ってください。まずいと言えませんから。食レポというのは、そういうところできついんです。大変なんです。

僕なんかは正直ですから、まずいとは言うてはいけないし、少し婉曲して言うのですが、うまく表現できないときがあります。食べるときには、もう冷えている。最初テーブルにあって、湯気が出ているときに食べるといいいんでしょうけど。箸を取って、口に持ってきたら、そこでストップするのです。そこで「ストップして、まだ入れないで、まだ入れないで」って言われて「はい、どうぞ」って言われて食べる。そして「はい、コメントを」という形で、そういう一連の動作がきちんとしていないと、テレビとしては映せないんですって。だから、サッと食って「うまい」と言うのが一番いいのですが、そういうわけにいかない。

次は米粉です。米粉をつくっている。若い人が生産者で、この人がつくったコメを米粉にして、製品としてみんなに食べさせるということがありました。この米粉でたこ焼きをつくったシーンを絵にしています。田園のところで稲刈りをして、それが粉になって、という感じで描いています。これは言葉で言われますから、こういう順序でつくってと言われたものを絵にするわけです。それを彼が米粉にして、たこ焼きで食べて子どもたちが喜んでいる。一応、それぞれがテレビの画面に出るのです。

実を言うと、タコは入っていないくてウインナーソーセージが入っている。タコの駄目な子



がいるから。今どきは、アレルギーの子がいるのです。そういうときはウインナーソーセージを入れる。今回はウインナーソーセージを入れたたこ焼きです。私はここでスケッチをしている感じで吹き出しが入っています。

テレビのイラストは終わります。



これはサクラの絵を年賀状用に描くのです。今、そういう時期ですね。年賀状用のサクラの絵を描くのですが、これは新津のサクラです。能代川分流通記念公園という古い公園があって、そこにもものすごく大きいサクラの木があるのです。巨木です。サクラはきれいですから、それを絵にしました。私の絵には必ず人が入ります。風景画には必ず人

が入ります。人を入れたり、動物を入れる。人がいなくても、あえて入れる。何でかという、絵の中に動きが欲しいのです。人がいると絵に花が咲くのです。そういう意味で必ずこういったものを入れます。犬や猫も必ず入れます。

だいたい、犬や猫はどこにでもいます。実際、ここにはいなかったけどあえて入れる。そうすると絵の動きが出て楽しいでしょう。僕の絵は楽しくないとよくないのでね。僕の絵を見て暗くなったなどならないように、気分が良くなるように僕は描いています。これも師匠の教えで、人を楽しませてください、人を平和にしてください、人を明るくしてください。そういうものを描いてくださいと。だから、僕はそうやって描いています。

若いときは気取って、苦しんでいるような、悩んでいるような絵をよく描きましたが、最近は描きません。明るい絵を心がけています。見た人が気持ちよくなってほしいから。いろんな絵があっていいわけですから、私の絵はそういうものだと考えてください。だから、おうちにも飾れます。注文をいただければ、すぐ描いてさし上げますから、おうちに飾ってください。



もう一つ。これは今年の年賀状用に描いたものです。新発田の米倉というまちを歩いていて描いたものです。どうってことないのですが、ちょっとした風景を絵にするのが私は好きなので、黒塀のところにサクラがパッと入るのです。それを描きました。猫はここにいませんでしたけどね。こっちにいた猫がここに来たという設定で。猫が魚

を、自分のご飯を思い出している。猫の親子がここにいました。

この通りは、なかなか風情のあるところで、人がいません。だいたい、今どき、まちを歩いて人も人がいないのです。寂しいのがほんとです。だけど、寂しくても静かなたたずまいがありますから。そのまちのたたずまいというのは大事で、たとえにぎわっていないなくても雰囲気が出ると風景としては良いのです。

まちを歩いていても、たたずまいのあるところは、本当にいいですね。必ずしも人がいて、にぎわっていないでもいいと。寂れた美しさとか、寂れた美というのはあるのです。それを絵で感じてもらえれば。だから、寂れていても大変素晴らしいところがいっぱいある。そういう意味で私はまちを歩いています。

寂れるのはどうしようもないのです。歴史の流れ、時代の流れですから。僕の場合はそこに何を感じるかが必要で、そういう寂れたまちでもなんとなく光るものがあるとか、そういったことでまちを見ています。寂しいところを歩くのが大好きです。

映画の評論をしている人で川本三郎さんという方がいます。作家ですが、その方はあえて寂しいところを歩くんですって。そこで、かつてのにぎわいを味わうんですって。いろんなことを考えさせられます。必ずしも人がいなくてもいい、寂しくてもいい。たたずまいさえあれば雰囲気が出るのだといつも考えています。

こういう絵ですが、さっき言ったように線なんか曲がっていて、フリーハンドで描きます。定規は使いません。線は曲がっていてもいいんです。一切定規を使わないで、ちょっと曲がっていてもいいし、花が大げさになってもいいから、とにかく絵にしようと描いています。必ず、コメント、文字が入っています。絵の中にコメントを入れるのもおかしいけど、そのとき感じたことを入れるようにしています。

ちょっと話としては終わりですが、何の話をしたか分かりません。だいたい私の仕事は、周りを見て、それを絵にすることで、いろんなところに行っています。

ちょっとお聞き苦しかったかもしれませんが、ご清聴ありがとうございました。



3. 提案報告

中央区自治協議会

浅野座長



岩田委員



【浅野】 ご紹介いただきました座長の浅野です。本日は雨で足もとの不自由ななか、お出かけいただきまして誠にありがとうございます。

当部会は、この2年間、少子高齢社会など、社会状況の変化に向けた未来のまちづくりを考えてきました。そこで、「未来に備えた地域のにぎわい創出・活性化」をテーマに、グランドデザイン5つの未来プランをまとめ、本日披露いたします。皆さまと共に、未来について考えるきっかけとしていただければ幸いです。

続きまして、経過報告について岩田委員より報告します。よろしく申し上げます。

【岩田】 皆さん、こんにちは。ずっと見ると知り合いの顔もいらっしゃいます。今日は楽しい会です。新潟の未来を語るのですが、ぜひ、皆さんの声もお聞きしたいと思えます。今日はいろんな業界の方がおいでです。平均年齢60歳の10人が1年半かけたテーマ「新潟の未来」です。自分の孫や子どもに残すような案を提案したいと思えます。テーマは「未来に備えた」ということです。

プロローグは序説です。皆さん、これぞ存じですよ。新潟の「市民憲章」。新潟の先人はすごいことをやっているのです。新潟で博打をやれば儲かるのですが、できないのです。なぜかという、新潟には「市民憲章」があるのです。「市民憲章」を踏まえてわれわれ10人のメンバーが1年半かけてきました。

次に新潟のまちづくり理念です。これは新潟市がつくっています。自然の力を活かした田園都市です。新潟の行政はすごくしっかりしています。今日、いらっしゃいますけどね。

実は新潟にも未来があるのです。今さら、と思えますがすごいのです。例えば、安心協働と、3つのトライアングルを描いていらっしゃる（安心協働都市、環境健康都市、創造

交流都市)。自治協を1年半やってきましたが、われわれがグーッと燃え立つような提案を今日やろうとしています。絵に描いた餅かもしれませんが、実は楽しい提案です。年寄り10人がつくった案なのでたいしたことはありませんが、今日はこれを皆さんにお話したいと思います。

「にぎわいの新潟あれこれ」。これから難しい話をしますので、ここで心を開いてください。新潟って結構楽しいまちですよ。新潟は住んで良いまちでしょう。良いまちです。東京に行ったらうんざりします。このいいまちをさらに良くしようということは大変なことです。

本論です。来る新潟の「未来に備えた」というテーマの公開フォーラムです。「Yes! We Can」、みんなで始めよう。私たちは、なつかしき未来のまちをつくらうというテーマにしました。変な言葉ですね。何で未来がなつかしいのか。

簡単にいうと、2045年ごろにロボット社会になります。ロボットが車を引いて古町を歩くのです。田んぼの中をロボットが飛ぶ時代が来るのです。でも、先ほど「市民憲章」があったように、われわれの新潟はそういうまちなのです。古いことと新しいことが融合したまちなのです。それがわれわれが目指す未来です。この「なつかしき未来」というのは、おそらく日本の地方都市は全部狙っています。われわれはなつかしき未来をつくりま

す。

なつかしき未来の概念です。時間がないので省略しますが、ロボットと自然や人間が結び合った豊かなまちということです。

みんなで始めよう。まず、なつかしい未来のまちづくりは3つあります。「住みたいまち」「働きたいまち」「訪れたいまち」で、そのためにはお金が要ります。雇用と観光をつくらうということと、最後に田園都市です。新潟市は唯一の田園都市です。これをどうい

うところからまとめるかというのが、われわれのアイデアの発端です。

皆さん、スローライフはご存じですか。スローフードはご存じですよ。スローフードが派生した和製英語がスローライフです。ただ、ダラダラして過ごせということではない。日本人、特に新潟の方は、そうなりたいと思っている。だけどできないというジレンマがある。だから、この田園都市でスローライフの生き方をしようという、そういうまちづくりを考えています。スローライフは決してダラダラした生活ではありません。皆さん、そう思うでしょう。スローな生き方がしたいでしょう。

その前に、社会環境を話します。皆さんがご存じのことですが、世の中は大変なことになっています。今度、パリ協定ができました。皆さん、10年後には家のエネルギーの4

割をカットしなければいけない。

最後に少子高齢化。お年寄りがすごい。昼に市バスに乗ると 90%がお年寄りです。でもお年寄りは大切にしないとイケない。そういう世の中をどうつくるか。なおかつ、健康と長寿と経済をどうリンクさせるかというのが、これから新潟を変えるためのポイントです。

こんなことは皆さんご存じですよ。じゃあ、新潟はどうなっているか。新潟の推移を見ると 2030 年には 40%がおひとりになる。お父さんが先に亡くなってお母さんがお一人。だいたい、お母さんが先に亡くなるとお父さんは 2 年後に死んでしまいます。おひとりの世代がものすごく増えます。これはどうやって生きていくのか。だから、福祉の問題があるのです。

それから人口が減ります。2040 年で約 165,000 人減るのです。少子化と言って子どもをつくっても間に合わない。もちろん、少子化の対策は大事ですが、どんどん減っていく。どうなるかという、市の財政負担が大きくなります。

それから、空き家が増えます。新潟市中央区で空き家は 17,000 軒あるのです。お年寄りが老人ホームに入ったり、息子のいる東京に行ったりして、内野やあっちへ行ったら空き家だらけです。でも空き家は商売になるのです。そういう人たちがやっている。私たちは、こういうネガティブをポジティブに変えていく発想をしています。

新潟市の GNP は約 3 兆円です。ところが第 3 次産業のサービス業は 8 割を占める。一番雇用が多い第 3 次産業が 8 割で、あとの 2 割は 2 次産業や 1 次の農業や漁業。この 2 次産業をどうやって増やしていくか。平均は 7 割がサービス業で、あと残りが製造業なのです。雇用がないということで、大学生はどんどん遠くへ行ってしまう。おまえ、何で行くんだと言ったら、みんな「雇用がないから」と言う。じゃあ、雇用をつくれればいいが、どうやってつくるかということです。これを考えなければいけない。

ただし、安心することが 1 つあります。皆さん、歳をとったら、自分は介護されると思っているでしょう。そうじゃない。8 割の人は大丈夫なのです。8 割の人はだいたい 2 ～ 3 カ月病院に入院したら、そのままお迎えが来るのです。その 2 割に入らないようにする。2 割に入ると、1 年、2 年ということで、介護は大変な問題です。なるべくなら 8 割に入るようなスローライフの生活をすることが必要です。だからあまり心配しないでください。大丈夫、皆さん 8 割の中に入っています。その他はいろいろあります。

ここで活動の内容を話します。平成 27 年に部会のみinnで「新潟をどうするか」という案を 80 ぐらい出したのです。それを議論して 12 に絞り込み、市民対象のグループイ

インタビューをおこないました。今日、グループインタビューに参加した方が5～6名いらっしゃいます。彼らの意見を聞きながら最終的に5つに絞りました。部会のメンバーの10人の連中はけんかしましたが、この5案を選びました。それを今日ご提案したいと思います。どうか笑ってください。

先ほど5案を選んだ1つの基準です。中央区には4つの拠点があるのですが、全て機能が違うのです。古町地区、万代地区、駅南・駅前地区、もう一つが鳥屋野潟周辺。全部機能やまちの役割が違うのです。これを一緒にして、人口80万人の人間を奪い合っても駄目なのです。

古町や本町をこれからどうするかというのは、それなりのやり方がある。今までのやり方はほとんど駄目です。それぞれのまちの機能を頂点にして、それプラス、小さな部落が生まれます。部落というと怒られますが、ミニタウン、コンパクトタウンです。例えば今日、高岡さんがいらっしゃっていますが、沼垂のああいうクラブなど、こういうコミュニティクラブがいっぱいできて、それがつながっていく。

私たちが発想した場合、新潟市中央部だけですが、全部見ると次の世代が見えてくるのです。古町は古町の機能を持たせるということを今やっています。

ここで5案、出ました。1つは古町・本町をどうするか。これは昔から出ています。2つ目は萬代橋。もう一度萬代橋を見直そうということです。3つ目は、去年から始まった憩いのオープンプレイス、やすらぎ堤のオープン化事業の拡充。4つ目は増えている空き家をどうするか。5つ目は鳥屋野潟の未来をどうするか。これをまとめてみました。

1番は古町。これはいろいろ物議がありました。結論は、古町の商店街の方もいろいろ頑張っています。頭が上がりません。でも限界なのです。「岩田さん、これ以上できない」とおっしゃる。なぜかという、「俺たちではどうにもならない」と言うのです。商店街を活性化しても駄目なのです。どうするか。われわれも悩みました。結論は古町・本町エリアを構造改革しよう。先ほどお話しした、まちの機能を変えるということ。

どう変えるか。古町はやることがいっぱいあります。芸者さんもいいのですが、こういうことは小さなことです。一個一個やることも必要ですが、もうちょっと大きなことをやらなければいけない。考えついたのが構造改革です。

これは4つキーワードがあります。「歴史と文化のまち」はいいですね。「新潟市のまちの心臓部」。古町をまちの心臓部にもう一度しなければいけない。そうしないとあのまちは廃れます。死んでいきます。それから本町中心に市民の台所。最後に全館アーケード。

そしてもう一つ、古町にはお寺があります。お寺さん、経営に苦しんでいます。お寺さ

んの力はお年寄りです。お寺さんと何とか仲良くできないかということです。だから、構造を変えます。

構造を変えるのはどうするか。トライアングルという視線があり、プロがやる手法ですが、3つの拠点からものを見ていきます。1つ、NEXT21をあつたかふれあいプラザにする。ここをワンストップにして、行政にして、行かなければいけない拠点にする。ここには文化、福祉、相談まで全部ある。

2つ目、大和デパート。僕はあまり好きじゃないんだけど、あそこを産業プラザにする。上は行政的なもの、下は産業プラザ。

3つ目、三越さんに相談していないのですが、ショッピングプラザ。買う拠点。この3つの拠点の中に市民80万人が行かなければいけない。だから、バスとかモノではないのです。そういう構造を、おそらく市の方は考えているはずですが。私たちは市の後押しをしたいのです。われわれもこういう意見を持っているということで、市を応援したいのです。

まだいろいろあります。これをまちの心臓とすることがテーマで結論です。

(1)なつかしき未来の街・古町本町地域を賑わいの街にしよう

現状分析と課題(要約)	関係者からの声の数々
<ul style="list-style-type: none"> ① 市社会への対応が乏しく、人の流れが減り、年々寂れゆく歴史と文化の街 ② NEXT21や旧大和の跡地、西堀地下ローサの不振が続いている ③ まちなかの魅力がない。閉古島が強い。どう魅力を作っていくのか。商業者自身が満ちた状態である ④ 芸術文化や歴史遺産古版の観光街の形が薄れてきた ⑤ まちなかの行政機関の機能が弱体化している 	<ul style="list-style-type: none"> ① 旧大和跡地の再開発に期待したい ② 駅ビルのような高層複合施設を設け、スモールミッドを築こうがいい。NEXT21は新潟県の情報センターとして活用できる ③ 市民がどうしても行かなくてはならない商業、行政の複合拠点がほしい ④ 本町を拠点とする朝市を活性化のきっかけにした観光の受け皿となる活動が必要である ⑤ 行政の新拠点ができれば、人の流れも期待できる
未来へのアイデア	
狙い目又はキャッチフレーズ	
<p>→トライアングルパワープラザを拠点とする、にぎわいと歴史文化のまちづくり＝大胆な古町本町エリアの構造改革を計ろう＝</p> <ul style="list-style-type: none"> ◎ 古町エリアの大胆な構造改革なくして、商業街の振興策だけではもはや街を活性化できない。市民が必要とするコンパクトな拠点に、リノベーションすべきである。拠点を変えよう。 ◎ 丸ごと新潟が勢ぞろいする。市民にとってはありがたい多機能型の拠点化を図る。「NEXT21×旧大和跡地×三越」のトライアングルパワーのワンストップ多機能拠点構想が必要。 ◎ 本町は市民の台所としての機能が必要。金沢の近江市場のような抜本的な構造改革が不可欠である。 	

企画立案の選択キーワード

歴史と文化のなつかしき街

全蓋アーケードの全天候型の街

新潟市のまちなか心臓部

市民の台所

大胆な構造改革を必要とする
新潟丸ごと拠点のまち

**新潟丸ごと拠点のまち
にぎわい“ふるまち”**



それを木原先生がイラストにしてくれました。ショッピングプラザ、あったかふれあいプラザ。ここに3人のキャラクターがいます。ほんとは木原さんにしたかったのですが、嫌だということで、じいちゃんとハナコと新之助。新之助はお米のブランドです。

この中で市民を招きたい。そうするとまちが活性化するのは。商店街がどうのこうのではないのです。それを古町の方にお話したいと思います。

次は萬代橋です。皆さん、萬代橋は単なる橋ですか。違います。130年の歴史があつて、萬代橋には萬代という神が宿るのです。その萬代橋をどうするか。あれは橋ではなくて人と人との心の架け橋、平和の架け橋です。そうやって見ると萬代橋ってすごいでしょ。単なる橋ではなく、市民の心はそこにある。神が宿る。萬代橋をもう一度ブランド化したい。東京の人が萬代橋の神を見に来たいというぐらいにしたい。

結論です。萬代橋は心の架け橋というデザインをしたい。こっち側に女神、向こう側に男神。男女の神。新潟はデザインのまちですから、この像は募集します。つくるのは市民からお金を集めます。寄付の方の名前を全部入れます。私もお金を出します。名前は残ります。そのように、萬代橋をもうちょっと上に上げることを考えています。萬代橋は心の架け橋です。

(2)新潟時間の時報塔のメロディがなる萬代橋を市民の心の拠り所にしよう

現状分析と課題(要約)	関係者からの声の数々
①新潟市には知名度の高いシンボルが少ない 萬代橋はその中で、130年の歴史をもつ国の重要文化財であり歴史遺産として、市民に愛されている ②新潟は架け橋の街である ③浜町のイメージを連想させる役割を担う存在でもある	①萬代橋に平和と愛のシンボルとなる時報のメロディ音を設け、朝夕のメロディーが鳴り渡れば、新潟市民の心に沁みつく ②萬代橋のさらなる遺産価値を高めるブランド化を図ろう ③光のオブジェ演出装置を設け、夜間でも輝く橋にしてほしい

未来へのアイデア

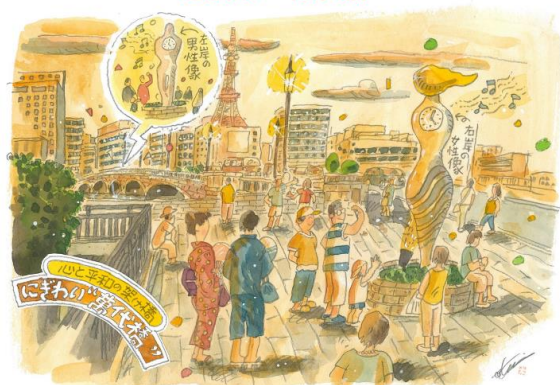
狙い目又はキャッチフレーズ

~平和と愛のオルゴール時計が奏でる新潟のシンボル~
=わたしたちは、世界の平和のかけ橋となる(市民憲章)=

- ◎萬代橋は心と平和の架け橋
- ◎芸術的な街燈が灯るかがやきの萬代橋
- ◎市民の心に沁みつく音と光の萬代橋

企画立案の選択キーワード

心と平和の架け橋
にぎわい“萬代橋”



やすらぎ堤。去年1年やられたのですが、皆さん、頑張っています。僕も大好きです。ただ、ちょっと欠点は、雨が降ったらできない。いろいろな方に聞いて、萬代橋をドキドキさせようという提案をしています。テーマは「ドキドキデートスポット」。若い人たち、アベックがああ堤防にはあまりいません。何でいないのか。新潟はそういうところです。出会いの場所がない。ありそうでない。だったらデートスポットにしようと考えています。

去年やりました。皆さん頑張っていますが、もうかっています。若い人は頑張っていますよね。これは良いことです。

いろいろやりたいことはありますが、結論を言います。ドキドキスポットのやすらぎ堤。4つのキーワード。私は京都のことをよく知っているから、床料理をつくりたいです。皆さん、鴨川の床料理をご存じですよね。ああいうことをやりたいのです。でも、無理かもしれません。

木原先生に描いていただきました。こちらは軽トラの朝市、週に2回ぐらい。向こう側

(3)「憩いのサードプレイス」やすらぎ堤のオープン化事業のさらなるにぎわいをつくろう

現状分析と課題(要約)

- ①天候に左右されない拠点づくりがポイント
- ②ミスベリクやすらぎ会議の活躍
- ③やすらぎ堤を活用して、「水都 新潟」の魅力向上させ、集客・憩いやすらぎ・にぎわい・活気、経済の活性化・雇用を図るのが「最終目標」である
- ④競を越えたわくわくするネーミングのグランドデザインでPRをすべきだ

関係者からの声の数々

- ①南側(右岸)のやすらぎ堤は万代シティーの公共空間、北側(左岸)は古町本町エリアの公共空間としての活用を考えるべきだ
- ②「右岸は飲食店」×「左岸は軽トラ販売の朝市」の地点とする。朝市と夜店の併設がほしい
- ③新潟はバーベキュー王国、売りたい
- ④デートスポットとしてのグランドデザインが望ましい

未来へのアイデア

狙い目又はキャッチフレーズ

～水都新潟の「どきどきデートスポット“やすらぎ堤”～

- ◎人々がワクワクするキャッチフレーズの拠点とする
- ◎年間歳時記を通しての新潟版「わくわく川辺イベント」をマーケティングしてゆこう
- ◎両岸に仮設の商店が並ぶ“やすらぎ堤商店街”
- ◎雨風にも負けない季節限定の水辺・川床施設のある“やすらぎ堤”



は全然違うこと。こっちと向こうで機能を違わせる。それを考えないといけない。こっちは週に1〜2回。向こうはテントがあって、床料理もある。こんな感じにして、向こうはアベックがいっぱい、こっちは旅行者がいっぱい。市民の気持ちですよ。無理かもしれませんが。

4つ目の空き家、空き地。先ほど 17,000 軒と言いましたがとにかく増えています。それをネガティブではなくポジティブに考えたい。例えば、ポケットパーク、公園です。あるいは子ども食堂。これは後から出てきます。やりたいのがおふくろ食堂。おじいちゃん、おばあちゃんの2人に1人が独身になりますから、500円の食堂をつくったらいいのです。これは子ども食堂と併用できます。

それから小規模対応のシェアハウス。Share 金沢（シェア金沢）という大きなものが出てきて、すごいのです。

あとはソーシャルインパクト。空き家をうまく利用した商売がこれからはやります。今回はあえて絞り込みました。とりあえず、子ども食堂にしたいということです。お年寄り食堂。子ども食堂は日本で400以上あるので、すぐにできると思います。6人に1人の子

(4)空き家、空き地を活用した地域の支え合い交流拠点をつくらう

現状分析と課題(要約)

- ①中央区においては、住宅総104,500戸に対し空家数は16,710戸推計され、空家率は16%という状況
- ②今後とも人口減少や高齢化の増加に伴い増加していくことが見込まれ、空き家対策特別措置法の施行を機に様々な活用が検討され始めている
- ③その中でも「子ども食堂」が全国的なブームを呼んでいる約400か所で開催している
- ④現在十分な食事をとれない子どもが6人に1人いる

関係者からの声の数々

- ①元気な高齢者の活躍の拠点づくりに利用したい
- ②行政の積極的な支援が不可欠である
- ③移住者、旅行者、学生などの一次ステイなども視野に入れよう
- ④子ども食堂は市農公商の協働システムで、一過性にならない活動が必要である。フードセンターの設立がポイント
- ⑤子ども食堂は貧困対策の負のイメージではない。子ども達が喜んで参加する交流の拠点である

未来へのアイデア

狙い目又はキャッチフレーズ

～空き家が地域のにぎわいの拠点に変わる～

- ◎まずは「空き家×子ども食堂」からスタートして、地域資源の複合的有効活用につなげよう。子どもの居場所につなげよう
- ◎高齢者と子どもの「世代間交流」「住民の地域活動の場」に空き家を使おう
- ◎「空き家×地域につながる場」としての様々な活用が望まれる高齢者対象の「おふくろ食堂」もおもしろい
- ◎今後はシェアハウスなどの多様な目的で活用してゆこう



どもがご飯が大変貧しいのでそれを補う。

いつでも安心して暮らせる老人ハウスができるんです。確か、西区でできたのです。元
気なシェアハウスです。あとは、公園、図書館。今回はにぎわい子ども食堂ということ
で、新潟もすでに動いています。新発田も動いています。これはすぐにできます。

最後は鳥屋野潟。ここは夢を持ちたい。日本の夢、新潟の夢を。テーマは3つありま
す。1つは観光をどうするか。2つ目は新しい雇用をつくりたい。3つ目、新しい都市を
つくりたい。細かく書いてあるのは省略します。

テーマは「なつかしき未来の新拠点」としています。上は鳥屋野潟の観光。ロボットを
使ったもの。新潟はニューフードバレーをやっています。要するに精密農業。それからメ
ガソーラー、太陽光発電です。新潟は太陽光発電は少ないです。市役所にちょっとありま
すが、聖籠町に行ってください。いっぱいあります。金持ちの行政というのは、ソー
ラーハウス、頑張っています。事業と家、団地、ロボットハウス、ロボット産業。

NIIGATA SKY PROJECT はあるのですが、第2次産業をつくらないと雇用が生まれませ
ん。新潟大学の卒業生が外に行ってしまう。雇用をつくらなければいけない。第1次産業
では駄目なのです。

なつかしき未来の新拠点、鳥屋野潟。見ていただいてどうでしょうか。鳥屋野潟に未来

(5) 鳥屋野潟湖畔周辺の賑わいの未来を考える

現状分析と課題(要約)

- ①鳥屋野潟の「護岸整備」と「南部開発」の長期化が避けられない
- ②開発・治水と自然・環境保護の両立の難しさ
- ③県・市・住民・民間のベクトル合わせができていない
- ④市民主体のとやの物語、スプリングフェスティバルなどの活動が活発である

関係者からの声の数々

- ①スローライフと先端技術産業が有機的に融合する田園タイプの未来のモデル地区とならないか
- ②県外からの人口交流を求める新潟の社会資源を生かした拠点づくりができないか
- ③護岸整備による海へのリフレッシュと観光施設をつくらう
- ④鳥屋野潟自体は自然のままがよい、治水神が宿る潟である

未来へのアイデア

具体的な狙い又はキャッチフレーズ

～スローライフ的な田園都市ライフと先端技術産業が有機的に融合する、“なつかしき未来の新拠点”～

- ◎鳥屋野潟周辺と南部地区を総合的・多面的な視点でとらえた①市民の憩いの場、②観光客誘致、③南部後背地の田畑を利用した先進農業研究のビジネスゾーンとする
- ◎市中心部、駅からのアクセスの利便性を創るための定時制確保のできる新交通システムの導入
- ◎植物工場や再生可能エネルギー製造などの新産業の拠点としたまちづくりを行う。雇用を作り出す。「食と再生可能エネルギーは市民の手で作る」を目標とする
- ◎スローライフ思想を視野に入れた田園ライフを楽しむ「コンハクトタウン 鳥屋野潟構想」を模索する

企画立案の選択キーワード

市民の憩いの場
観光産業の創出

エネルギーと食の
地産地消タウン

なつかしき未来の新拠点 “鳥屋野潟”

スローライフ的な
田園都市ライフの
モデルタウン

ロボット利用農業と
先進農業センターの
拠点

なつかしき未来の新拠点
にぎわい“鳥屋野潟”

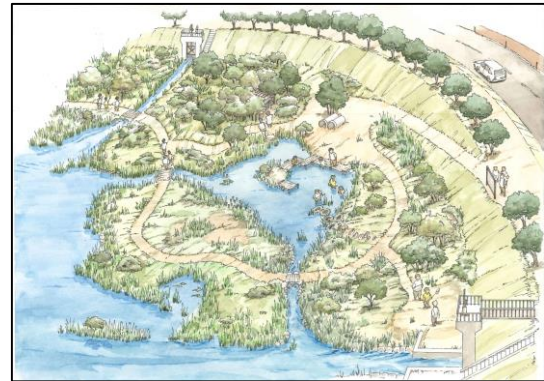


は見えないでしょうか。木原先生に描いていただきました。スローライフ、メガソーラー産業と、コンパクトタウンをやると、東京から年寄りが来るのです。3%くらい。これはドローンです。

新潟は冬の天气が悪いですから。新潟というのは農業ですから、オランダあたりと手を結んで、ロボットやドローンを使ってできるのです。言うならば、エネルギーと食の、地産地消、自分でつくるといことです。それを若い人たちに「やらないか」と話したい。やるなら応援するといことです。

もう一つ、観光についてお話しします。観光団体から提案がありました。荒井さんという方が描いた絵で、木原先生のものとはちょっと違うのですが、皆さん、鳥屋野潟はこうなるのです。荒井さんはそういう活動をされている方です。後ほど、相楽さんからいろんな提案があると思いますが、僕たち素人から見たら、いいなと思いますよね。

まさに180度変わってしまいます。鳥屋野潟自体をどうするかではなくて、あの湖岸をどうするかです。荒井さんは、これを気に入っていました。鳥屋野潟の自然そのものを使うといことです。



最後にホットな提案をしたいと思います。次の私たちの後の自治協につないでほしい、私たちの遺言です。

1つは、人口減でも元気な自治体づくりをしないとイケないのです。いろんな知恵・アイデアがあります。当然、市役所はやっています。これを自治協として提案しなければいけない。自治協というのは、市役所や行政のガス抜きではないのです。われわれを出さなければいけない。そのための役目です。

2つ目。生きがい就労。お年寄りに給料を安くてもいいから仕事を与えるのです。どうなるかという、体が元気になる。お金を使う。一日2時間働いて4,000円だったら、1万円使うのです。もう一つは医療費ががた減りする。年寄りの方をどういうふうにするか。昔みたいではなく、週に2、3回。年寄りというのは、仕事があれば必ず出て行くの

です。趣味の会などは出て行かないのです。1時間1,000円やるぞと言われれば、無理しなくても出ていくでしょう。そうすると元気になるのです。

それから年間イベント。新潟はイベント王国です。でも、これをコントロールしているシステムが見えてこない。特にバスセンター辺りはすごくて、年がら年中やっています。これをコントロールするシステムです。

それとお寺さんが多いですから、お寺さんと仲良くしたい。

新潟には無形文化人という技術を持った方が多いので登録したいのです。彼らの技術を若者に伝えたいのです。もちろん、燕三条辺りにはいっぱいいますが、新潟にもいるのです。でもそれを登録するところがない。

それから結婚支援。今の若者は、男が20%、女は10%、結婚しないのです。考えられないです。どうなるかという、子どもが生まれない。男が20%というのは、金がないからです。どうするか。これは婚活支援しなければいけない。

昔は縁をつなぐおばあちゃんがいっぱいいたんですよ。今、いないでしょう。これを官・民で協働してやるのです。2割、1割、結婚しないのですよ。

あとは地域文化。新潟には昔、神社で子ども相撲がありました。ああいうものをもう一度復活させたいですね。

最後に、新潟版のコンパクトシティです。この前、富山と金沢に行ったのですが、かなり進んでいます。富山はまだ成功していないのですが、市民はかなり意識しています。こんなことを1年間、夜、勉強してきました。

一番言いたいのは6番です。行政と連帯して、自分でやって、自分で責任を取るという自治協でないと駄目なのです。すぐに金がないと嘆くのです。今日、沼垂テラス商店街の高岡がいらっしゃるのですが、彼らは自分でお金を出して、責任を持ったのです。だからみんな反応したのです。

ですから、われわれは、できない部分は行政に頼まないといけませんが、まず自分でやってみる。ソーラーハウスもオーケー、ロボット産業もオーケー。自分でやってみて、ある程度の評価を得たら、そこで初めて市に助けてくれと。そういう関係が良いと思います。自治協というのは、お金をもらう組織ではなくて、提案する組織なのです。

こんなことを1年半、素人ですけども勉強したのです。

これはメンバーです。まちでこの人たちに会ったら、声を掛けてください。ありがとうございました。

4. パネルディスカッション

「未来に備えた地域のにぎわい創出と活性化」

パネリスト：松井 大輔 氏（新潟大学工学部 助教）
：高岡 はつえ 氏（沼垂テラス商店街 店舗統括マネージャー）
：相楽 治 氏（NPO法人 新潟水辺の会 代表）

コーディネーター：津吉 孝司 氏（中央区自治協議会「拠点と賑わいのまち部会」委員）

オブザーバー：木原 四郎 氏（旅するイラストレーター）



【津吉氏】 皆さん、こんにちは。今ほどご紹介いただきました中央区自治協議会委員の津吉と申します。先ほどの集合写真は私だけちょっと写っておりませんでした。私の顔も忘れずにとということで、よろしくお願ひしたいと思ひます。

また、私の名字が津吉（つよし）と申します。これは名前ではなく、名字が津吉でございますので、ニックネームで呼ばれているわけではございません。本日はよろしくお願ひ申し上げます。

私たちの住む中央区というのは、先ほどお話がありました、政令市新潟の中心に位置しております。新潟というまちが生まれてから、ヒト・モノ・情報が活発に交わる、そして、にぎわいあふれる地域がこの新潟の中央区だったと思ひます。

しかしながら、新潟市がどんどん拡大するにつれ、都市は大きくなった、広くなったけれども何か物足りない、活気がない、そう思われている方がたくさんいらっしゃるんじゃないかと思ひます。そんな中、本日私ども、いろいろと提案をさせていただいたわけでございます。

今日の岩田委員の提案にもございましたが、今、日本は人口減少、高齢化比率の増加、いろいろな問題を国レベルで抱えております。ただ、国レベルというよりも地域の存続というものが、これから30年、40年の中で社会問題として大きくなってきているのではないかと思ひます。

私は昭和33年に生まれたのですけれども、当時、60年代というのは、新潟島に約36万人と社会科の授業で教えていただいております。新潟島の人口は、当時約14万人、非常

ににぎわいのあった地域だったんですが、今では6万人強という人口に減ってきております。

それは取りも直さず、郊外へ居住が移り、事業所も移り、どんどん新潟市というのが広がっていった結果なのだと思います。そして、また現在、IT（情報技術）、ICT（情報通信）、AI（人工知能）というようなテクノロジーの進化が目まぐるしく起きております。

1980年代後半は、ポケベルというものが通信手段として使われておりました。それから1990年代、携帯電話というものが普及し始めました。今、皆さまがお持ちのスマホは、2007年iPhone発売で今から9年前、10年たっておりません。これらのテクノロジーの進化が、人間の生活、ライフスタイルにもいろいろ影響を与えてきております。

そんな中、世界経済も大きくかじを保護主義に取ろうとする風潮もございます。グローバル化の否定にも走っている部分もございます。しかしながら、世界はもう結び付いている。その中で新潟がどうやって生きていかなければいけないか、こういった問題についても考えていければと思います。これから訪れる新潟の未来について、皆さんと考える機会になればと思いますので、本日はよろしくお願ひいたします。

さて、自治協協議会の「拠点と賑わいのまち部会」が今ほど提案させていただきました「未来に備えた地域のにぎわい・活性化」と題しまして、5つの提案をさせていただきました。先ほど岩田委員もおっしゃっていましたが、平均年齢が60歳以上の者が取りまとめた提案でございます。若い世代の方には、ちょっとピンと来ないものもあるかもしれませんが、その辺はご理解いただければと思います。

それでは、まず初めにパネリストの皆さんから自己紹介を、併せてご自身の取り組みについてご紹介いただければと思います。お一人、5分程度でお願いします。初めに松井助教授、よろしくお願いします。

【松井氏】 あらためまして、新潟大学の松井と申します。どうぞよろしくお願ひいたします。

スライドのほうを付けて、ちょっと画面が見にくいので前のほうに出て話させていただきます。

松井大輔といいます。サッカー選手とか野球選手に似たような名前があるので、覚えていただけるかと思ひます。新潟大学の工学部に建設学科建築学コースというのがありまして、そこで都市計画を教えております。あと、その出身のOBと一緒に、「みちLab.」という市民組織をつくりまして、新潟市内で活動させていただいております。

年齢は今32歳です。部会の方の平均年齢は60歳ということでしたので、ちょうど子ども世代といひますか、そういう世代になります。基本、息子というのは、おやじにかみつくもんですので、今日は辛めに行きたいと思ひますので、どうぞよろしくお願ひいたします。

これはちょっと古い写真です。2008年に新潟島から撮りました萬代橋です。当時、私は修士の学生でして、このころ萬代橋の橋詰めにマンションが何棟も建った。それでマンションの中に萬代橋が埋没してしまうんじゃないかということで、「萬代橋景観フォーラム」というのをいろんな方につくりまして、そこに私は学生として関わらせていただきました。これが私の今の原点ということになります。ここから、景観とか都市デザインというところに

興味を持ちまして、今の職におります。なので、どこでかみつつかはよく分かると思いますが、たぶんここでかみつきます。

その後、新潟から 2009 年に離れまして、東京と京都で学生と仕事を続けまして、2014 年から新潟大学に赴任して都市計画を教えております。研究活動は、富山とか京都とか、いろんなフィールドでやっているんですけども、その中で新潟も何個かやっておりますので、それを紹介して自己紹介とさせていただければと思います。

この写真は、下町（しもまち）のほうに上大川前通 12 番町に旧小澤家住宅というのがあります。そちらを大学の授業でライトアップですとか、そういうことをさせていただきながら、新潟大学生は五十嵐に住んでおりますので、なかなか下ですとか古町とか、中央区のほうには来ないという現状がありますので、新潟の顔である中央区を知ってもらおうということと、あとは、まちづくりというのはどんなものなのかということ勉強してもらおうということをやっております。

こういう建物のライトアップをしたりとか。ちょっと暗いですけどね。あと、建物の中でまちづくりに対する提案、これは平均年齢 20 歳くらいの子たちがやる提案ですので、今回の部会の方の提案とはまったく違う内容が出てきたりとかするわけですが、そういう提案をやったりとか。あとは、小澤家の脇に茂作小路というのがありまして、そのライトアップとか、そういうことをやっております。

今年が 5 回目の大学の授業としては関わる年でして、来年の 1 月 28 日に「きなせや下町」というイベントを通して、またこういうライトアップを拡大したり。あとは、こういうカフェを学生が運営して、歴史的建物の使い方を新たな視点から提案するというのをやっております。

あとは、私ども OB のほうが中心となりまして、みち Lab. というのをつくっているんですが、こちら平均年齢 30 歳くらいの世代ですけども、そういう世代を中心としまして、新潟をもう一回学び直そう、新潟で何をやるかということを考える会をやっております。

基本的には、各地で実践されている方をお呼びして、まちづくりの実践のときに自分たちの参考になるものを教えてもらいながら、自分たちで何を実践するかということをやっております。こういうふうに地図を見ながら語り合う「地図ナイト」というのをやっていたりですとか。

あとは、福岡県八女市福島地区がありまして、そちらは空き家再生がずいぶん進んでおりますので、そういうところの若手の人を呼んで、実際に何をやっているかということをお聞きしたりとか。

この前、古町の川辰仲さんという芸者置屋さんだったところで、亀田のほうにありますが農園の従業員の方をお呼びして、農業とまちづくりを絡めて、どういうふうに中央区とか都心の中でやっていくかというような議論をしております。

こういうようなかたちで若者を、若者といっても私たちと同じ世代なんですけど、そういう人たちが中央区、新潟市でどういうふうに活動していくかというのを、ここ数年始めたというのが私の活動になります。かみつくのは後にします。



【津吉氏】 松井先生、ありがとうございました。

松井先生は、資料を見ましたら、先斗町や神楽坂の花街の町並みもご研究されていたということで、大変新潟の花街にも造詣が深いのかなと思います。

続きまして、沼垂テラス商店街の高岡さん、よろしくお願いいたします。

【高岡氏】 私は、このお席からでよろしいでしょうか。ちょっと座ったかたちで、では紹介させていただきます。

先ほどの自治協さんたちの素晴らしい提言の中で、古町、本町、鳥屋野といった、拠点の中には残念ながら入っておりませんが、沼垂で一生懸命頑張っております、沼垂テラス商店街の管理・運営をしておりますテラスオフィスからまいりました高岡と申します。本日はどうぞよろしくお願いいたします。

ちょっとだけ沼垂テラス商店街のこと、成り立ちをご説明したいと思います。まずは、この写真をご覧ください。ここが現在、沼垂テラス商店街がある場所、いわゆる旧沼垂市場通り境界となります。左が昔の写真です。こちらが現在の写真。ここが長屋の部分なんですけれども、ここが沼垂テラス商店街になります。

後方に見える工場群、それからお寺に囲まれているまち、昭和 30 年代に市の施策により堀が埋め立てられまして、このような長屋の市場が設置されました。ここをそのまま生かしまして、2015 年、今年の春から沼垂テラス商店街として内外に発信し頑張っているところです。

どうでしょう。この昔の写真なんですけど、モノとヒトであふれています。当時のこの通りは、市（いち）といわれるお店がずらっと連なりまして、お店とお客さんとのやりとりで活気にあふれていて、そこには触れ合いや人情がたっぷり満ちあふれていたといわれています。

しかし、ご覧ください。昨今では、店の経営者やまちの人々の高齢化で、店が徐々に閉まってしまっていて、郊外には大型店ができ、ほとんどのシャッターが常時閉まっているシャッター通りとなってしまいました。実はこちらは、ほんの 3 年前ぐらいの写真になります。人もあまり歩いていなくて、まちがしばらく眠ったままの状態になっていました。

ですが、ここ数年、このとおりに変化が起きました。このまちのノスタルジックで、ゆ

ったりとした空気感、そんな雰囲気を入り込んだ若者たちの出店が相次ぎまして、人の流れが戻り始めました。

沼垂テラス商店街の先駆け、パイオニアとなったお店がこちらになります。平成 22 年、今から 6 年前になりますが、ソフトクリームとお総菜のお店「Ruruck Kitchen (ルルックキッチン)」ができました。このお店は、沼垂のシャッター通りに再びにぎわいを取り戻したいと願って開いたお店になります。

そうしたら、その翌年、今から 5 年前、家具とコーヒーのお店「ISANA (イサナ)」ができました。自分たちの店を出したいと願って、この地に来られた若いご夫婦が、沼垂の雰囲気を気に入ってオープンさせたお店です。

そしてまた、その翌年、陶芸教室と工房の「青人窯 (あおとがま)」がオープンしました。先に紹介した 2 店舗に感化された若いご夫婦が、沼垂に偶然遊びに来られたことがきっかけで、この地で自分たちの夢にチャレンジしたいとお店を構えました。

こんな流れの中で、当商店街のコンセプトをこのように決めました。ここはポイントになると思っています。「古くて新しい沼垂、歴史・文化・景観を生かしながら、ここでしか出会えないモノ・ヒト・空間を演出し、お客さまに楽しんでいただく」。

このコンセプトを基に、ホームページや Facebook など、SNS を用いて発信したところ、その後、このような個性的なお店が続々と集まりまして、2015 年、沼垂テラス商店街誕生となりました。魅力的な店主さんや魅力的なモノにひかれて、お客さまも徐々に集まるようになりました。

そして、そういった活動が周辺に伝播しまして、まちにムーブメントが起きました。時計屋さんだった空き家が本屋に変わったり、大きな古民家がゲストハウス、いわゆる簡易宿泊所に、来月、変わろうとしています。

このようにたくさんのメディアに取り上げていただきまして、極め付けなんですけど、今年の初めに「地域再生大賞」の準大賞をいただくことができました。

今はさらに沼垂を盛り上げていこうと、新名物のお菓子『沼ネコ焼』を開発したり、また沼垂テラス商店街のサテライトショップを広げて、さらなる地域の活性化につなげていこうと考えております。

こちらは、つい先日、地域を挙げてのイベント「沼垂 結び婚 (ぬったり むすびこん)」、いわゆる結婚式、花嫁行列を行ったばかりです。

こういった 200 メートルほどの長屋がずらりと連なる風景を生かしながら、このまちの



よさを皆さんに知って、そして体感していただきたく、日々活動している次第です。今日は、そういった沼垂テラスのまちづくりに携わってきた私の経験から、何か少しお役に立てればと思っております。本日はどうぞよろしく願いいたします。

【津吉氏】 高岡さん、ありがとうございました。

私も先日テレビで、商店街の結婚式を拝見させていただきました。非常に地元の方々が盛り上がり、すてきな結婚式だったなと思います。

続きまして、相楽さんをお願いしたいと思います。

【相楽氏】 こんにちは。今日はくしくも、年齢でいうと、こちらが若くて、私は木原さんより2つ年下なんですが高齢者グループで、ここで分かれているというバランスと、松井さんが函館で、私が福島で、お隣が佐賀という、これもバランスがいいなと。

後で、ちょっと議論にならないかもしれませんが、天領のまち、北前船の話が出ているのに、先ほどの提案になぜ出ないのかなという話を後でできたらいいなと思っています。

私どもの水辺の会は、1987年にスタートいたしました。いろいろなことをやってきたんですけれども、主に新潟の水辺というかたちでの新しい取り組みをずらっと並べてきましたけど、それで進めてまいりました。

左上のほうに「柳川堀割物語」という、こちらのご縁のある北原白秋さんの生家のあるまちですが、ここのドブ川再生というものを少し映画でやったのをきっかけに、つくりました。

幾つかまた後で議論になるかもしれませんが、その一つが、例えば通船川における身近な川のまちから、まちをおこしていくと。それをできるだけ今までの行政と違う、公民館とか地元の商店街の人と一緒にやってきたという経緯がございます。

それから、ウォーターシャトルの社長の栗原さんも会員ですけれども、どうせ動かすならば、市民が動かせばもっと面白いじゃないかということで市民株主を提案したら、今は七百何十名で2億円ぐらいですかね、それで船が動いているという現状がございます。

それと、私どもは流域、信濃川の末端にありますので、上流との結び付きが重要だということ。たまたま亡くなってしまったんですけど、石月という面白い人がいたんです。長野県で鮭の放流をやるべきだとラジオで言った瞬間に、やらざるを得なくなったところもありまして、今から10年ぐらい前に長野県で鮭の放流をしてきました。

ここに挙げていますように、だいたい190万匹。学校の子どもたちとか、いろいろ参加者が延べ5,000人ぐらい参加して、このようなかたちでやってきました。昨年、われわれはちょっと事情があって放流はできなかったんですが、自然産卵が上田で起きたということで、ある種、新聞沙汰になったという経緯がございます。

いずれにしても、流域でつながってきたまちが、もっと流域としてのつながりを強めていくべきじゃないかということで、今取り組んでいます。

実は、あと2週間後に、左側にありますように、通船川と鳥屋野潟を少しテーマにしたシンポジウムをこのお隣あたりでやる予定です。今ちょうど、いい意味で、これから川のある

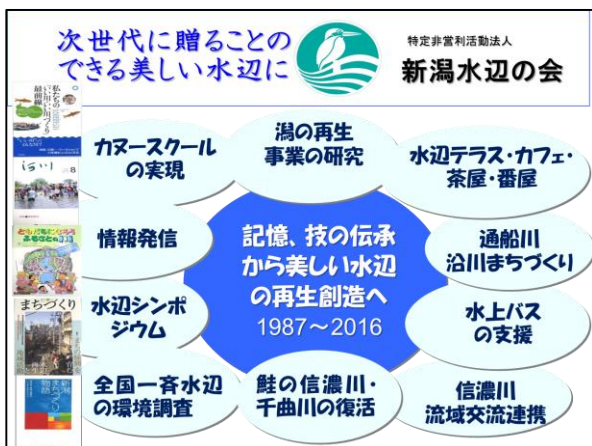
まちの曲がり角に来ていると。一定程度、ドブ川再生はできたんですけども、一方でこれから鳥屋野潟は劇的に変わっていくだろうと。劇的に変わっていくときに、全て行政の方のお力だけでやっていたのでは、先ほど松井さんから話がありましたように、民間のエネルギーを使えないじゃないかと。

逆に言えば、次の世代にどう残すかと、先ほど岩田さんがおっしゃいましたように、できればより付加価値の高い潟、ライフに持っていったらいいのではないかとということで、後でもちょっと議論になりますけれども、やはりスローライフのまさに象徴的なところが鳥屋野潟でございますので、私は午前中、カヌーで遊んで、午後から雨が降ったら仕事をするというような、晴耕雨読の先を行ったような暮らしが実は新潟はできるんだということも、もう一回再確認すべきかなと思っています。

それと、右上のほうの信濃川の閘門（こうもん）がございますが、これは来年、登録文化財になる50年たちます。それをどうするかという話もあります。

真ん中に書きましたけど、信濃川の30年計画の整備もさせていただきましたが、これからできるだけ、そういうチャンスを生かしたというところを皆さんと一緒に議論できたらなと思っています。

ということで私の自己紹介に代えたいと思います。



【津吉氏】 相楽さん、ありがとうございます。

相楽さんとは、新潟市南商工振興会で大変楽しく活動させていただいております。今日はよろしくお願いたします。

次に、今日提案させていただきました5つの提案につきまして、パネラーの皆さまからご意見、ご感想をいただければと思っています。5つの提案、先ほどありましたけれども、全部について全てコメントいただかなくても結構でございます。その中からご自分なりにスポットを当ててお話いただければと思います。

では相楽さんより、よろしくお願いたします。

【相楽氏】 では私のほうから。一つ一つの意見がどうこうというのではなくて、これからこういう視点が大事なんじゃないのかなというところだけ、さらっと説明させていただきます。

先ほど、2030年の人口の話が出ました。これは内閣府が発表している話ですけれども、私もこの世代になってしまうんですが、2100年には明治時代と同じ人口にたぶんなるだろうと推定されています。

その中で、一体全体どういう考え方でやるべきなのかといったときに、上に書きましたけど、予算は少なくなるし、これからは幾つか助成あたりもできなくなってくる。そのときに、われわれ老人がどう活躍すればいいのかなということを頭に置きながら、先ほどの提案を見たときに、何をよしとするべきかと考えますと、たぶんいろんな意味での難しい局面が出てきたときに、これからは選択と集中なのかなど。

ただ、それはどういう必然性でやるのかなというところを少し、私なりに視点を述べさせていただきます。

1つ目は、先ほど岩田さんもおっしゃっていますように、民間あるいは個人が自力でできるか。高岡さんは自力でやっていらっしゃるんですけども、そういうことが一つ挙げられる。

それから、われわれは津吉さんと一緒に幾つかイベントをお手伝いしているんですが、やはりイベントも戦略化すべきで、これをどう持続化させるか。肥田野さんあたりはソーシャルビジネスを始めているんですが、こういう持続させる仕組みをどうするのか。

3つ目は、高齢者だけが提案したらと、先ほど松井さんから少しかみつくぞと言われましたけど、次世代の若い人たち、子どもたちに、どう夢をつないでいくかということがないと、なかなかお先真っ暗なのかなどという感じがいたします。

その上で、ちょっと重要な視点として水辺の会で挙げているのは、実は左側に書かれているような、治水と環境と利水という、これは今の法律でこの3つを同時に満足させるということをおっしゃっているんですが、現実にはなかなか利水はないです。ということで、これからは水辺をさらに、そこで稼ぐといいますか、稼いだ金をもう一回水辺の環境の改善に回すという意味で、ブランド化していくという視点が必要なのではないかなと。

これはちょっと時間がかかるので割愛しますが、そういう意味でいうと、実は私、1989年に信濃川がこうなったらいいねと提案しているんです。ただ、私が提案したから動いたわけじゃありません。たぶん必然性があったんだと思います。リバーマリーナとか、メッセとか、みなとぴあは現実にできましたね。

まだできていないものが幾つかあるんですが、私どもは例えばソウルまで行って、他門川は復活できないかなと言ったんですけど、その土地を持っている人がうんと言わないだろうとかあって、実現はしていません。

ただ、今からでもまだ実現しそうなのは、僕は先ほどの、やすらぎ堤のところに、こういうのがなぜ出てこないのかなと思ったんですが、できたら対岸と綱引きをやったらいいんじゃないかと。つまり、左岸のまちと右岸のまちをどうするじゃなくて、やはり左岸と右岸が一体になったということを常々、船あたりを使ってできないかなというのが一つ、重要な視点として挙げさせていただきたいと思います。

鳥屋野潟のほうは、むしろ使い方は過去に示されているんですね。この鳥屋野潟に行くときは、皆さんネクタイを締めて行ったという写真もあります。つまり、こういうふうに晴れ

の舞台として鳥屋野潟はあったのに、今はどうなのかなと。みんな潟に背を向けて、ビッグスワンで80万人入ろうが、あそこにもいろいろ計算すると470、480万人の人たちが来ているんですが、潟の中はなかなか入らないと。

こんな不幸ことはないなと思っています。私が新潟大学でボート部にいたり、実は戸田のオリンピックコースも行ったことがあるんです。あと、今カヌーをやっているんですが、やはり新潟の資源として、これを生かさないと手はないなと。

逆に言うと、鳥屋野潟を復活させようとしたら、何兆円ぐらい掛かるんでしょうかね。そういうことを考えますと、こういうことを大事にして、先ほどのプランをもう一回シャッフルしていただけたらどうかというのが私のコメントであります。

【津吉氏】 相楽さん、ありがとうございます。

続きまして、高岡さん、よろしくお願ひいたします。

【高岡氏】 私は特に画像がないんですけれども、5つの提案の中で、それでは一つ、増え続ける空き家・空き地をどうするかというところで、私はまちづくりに携わってまだほんの少ししか時間がたっていないくて、自分たちがやっていることが果たして正解なのかどうかもまったく分からない中で、皆さんの提言というよりも私の経験を今回お知らせしたいと思います。

沼垂テラス商店街をスタートさせた後、いったん長屋が全部埋まったんですね。そのスタートを切った後も実は弊社宛てに、結構いろんな方から問い合わせとか出店希望がありました。

残念ながら、長屋店舗のところは全て埋まってしまったために、これ以上ご案内することができないという中で、私たちはどうしようと思っていました。でも、お断りはするんですけれども、一応ウェイティングリストならぬ、お名前とお電話番号だけ残っていて、何か縁があったら連絡しますねというふうにしていたんです。

そういった方々がたくさんいらっしゃるということに、まず驚くんです。お店を開きたいとか、沼垂で挑戦したいと考えている人たちは結構たくさんいらっしゃるということで、私たちが次の新しい事業を、次の一手として何をしようかと考えたときに、空き家活用事業を考えました。

そういったさなか、さっきご紹介したとおり、10年間空き家だった時計屋さんを本屋さんにしましたというのをご紹介したんですが、その流れを少しご説明したいと思います。

昨年夏の終わりぐらいに、もともと沼垂に住まわれている方で、ご両親の相続で空き家のオーナーになった女性が私どものところに訪ねてこられました。その内容は、近くに空き物件を持っているんですけれども、こちらで活用してもらえないかと言われました。よくよくお話を聞いてみますと、手放したくはないけれども、そのまま放置していてももったいないので、何かに活用してほしいということでした。

まず、物件を見に行ったのです。商店街から歩いて約2分のところで、10年ほど前までご両親が時計店を営まれて、1階が店舗、2階が住居のほどよいサイズの一軒家で、大通り

に面した車も人通りも多い場所でした。

私たちが書きためていたウェイティングリストの中から、この人と浮かんできたのが、さっきの本屋さんを開いてくれた 20 代後半の女性だったのです。彼女は昨年の初めに、そのときは香川の高松で働いていまして、帰省の際というか、すでに本人はUターンをして起業を考えられていたんですね。そのための場所探しに新潟に帰ってこられた際に、うちに訪ねてこられまして、本屋をやりたいとおっしゃいました。

とてもパワフルで魅力的な女性だったので、彼女なら何か一緒にできるかなと思ったんですけども、そのときはちょっとご案内できなかったんです。この空き家の件で彼女に声を掛けたら、すぐにマッチングが成立しました。そこで、とんとん拍子に話が進みまして、昨年の年明けぐらいに相談に来られて、その年の冬にオープンしたという流れになったんです。そのような感じで私たちのところでは、そういった変化が起きている。

さらにもう1軒なんですけど、今、ゲストハウスが着々と進行中でして、こちらは来月のオープン予定になっています。オーナーが女性になるんですけども、なんか女性がすごくパワフルなんです。その彼女も長野から帰省をされて、Uターンをしてゲストハウスを開くということがございますので、ぜひこういったことがあるということをお役に立てていただければなと思います。

【津吉氏】 高岡さん、ありがとうございました。

続きまして、松井先生、よろしく願いいたします。

【松井氏】 私も、ちょっとここではスライドを用意していないので口頭だけになります。個々の案に対してというよりは、まず最初は全体として思ったことなんですけれども、初めてこのお話をいただいたのが確か今年の6月末ころだったと思います。岩田さんから説明いただいて、おう、どうしようかというのが正直な印象でした。というのも、最初もらった説明された案にちょっと違和感がありまして、この半年くらい、それをずっと悩みながら、どうしようかなと思っていたんですけども。その違和感というのは何なのかなというのは、ここ2週間くらい前に何となく分かりました。

今日、岩田さんのお話、いただいた内容に関してなんですけれども、新潟が抱える課題というのは、確かにおっしゃるとおりでして、そのとおりだなというところが、すごく多いというところがありました。

人口減少の問題もそうですし、空き家の問題もそうですし、われわれがどうにかしていかなきゃいけないというところの直面する課題というのはすごく整理されている。じゃあ、どこが違和感だったんだろうというところが、具体的な手法のところについて、クエスチョンの部分が多いというところが、やっぱりそこなんだなあというのが、ここ最近分かったわけです。

それが全体の印象です。例えばどこかといいますと、萬代橋の絵がありました。そこにかみつきますと言いましたけれども、モニュメントを建てて、そこからオルゴールを鳴らすという案ですね。そこに対してなんですけど、例えば若者が音楽を流すだけで来ると思ってい

るのかというところが正直なところでして、それはなかなか難しいですよねというところですか。

あと、萬代橋というのは国の重要文化財なわけですが。要は、言ってしまえば、新潟市の宝なわけですが。それを埋もれないようにしようと活動してきたのが 2006 年、2007 年、2008 年くらいの活動です。そういう過去の経緯を踏まえないで、新たにまた何かをつくる、それを新潟市の委員会がやっているというのは大丈夫なのかなというところが、一つの感想だったりします。

あと、例えば古町のほうの案もありましたけれども、歴史が大事だと、すごいそのとおりだと思います。けれど、その結果が大和と NEXT21 と三越ですか。そこじゃないだろうというところが正直な感想です。

何を言いたいかといいますと、つまり、部会の方が提案された提案内容というのは、一つの案としては素晴らしいものなんだろうなと思うんですけども、例えば世代間のギャップですとか、住んでいるところのギャップ、今まで見てきたことの内容に対してのギャップとか、そういうギャップがいろいろあるのかなと。そこがたぶん私が感じた違和感なのかなというところが、ここ最近のこの案に対しての私なりの結論なんですけれども。

なので、提案いただいた内容はもちろん全否定するつもりはなくて、やっていけるとこはやっていったほうがいいこともあるだろうし、実際問題、部会の方が手を動かさずと言っているんだから動かしてください、楽しみにしていますというのが私の正直なところなんですけれども。

それ以外に、若い側の意見を聞くというか、そういう機会を設けながら、今回提案された内容をブラッシュアップしていくといいますか、そういうような活動が、双方向の意見をまとめながらつくり上げていくというのが、本来の未来像というものなのかなと今回の発表を見させていただいて。要は提案の内容が、ある意味押し付けなんじゃないのかなというものが私の正直な感想になります。以上です。

【津吉氏】 松井先生、ありがとうございました。

私どもの今ほど部会から提案がありました、5つの提案にすてきなイラストを描いていただきました木原先生、一言何かご感想ありましたらいただければと思います。

【木原氏】 何て言うかな、僕なんか、どちらかというと、寂しいところ、寂れたところというのに非常にね、ひかれる。さっきもちょっと話しましたがけれども、そういう人間なんですよね。

それで、何も人がいなくても、なんかすごくいいところというのはあるんですね。そういうのを見つけて、秘かに喜ぶタイプなんです。だから、寂しくてもいいんじゃないかという気がするし、人が少なくてもいいんじゃないかと来て、そこでなんかすごく、その中に浸って昔をしのぶという言い方、一種のそういうかたちになるでしょうけれどもね、ノスタルジックな雰囲気なのが趣味なんですよ。

いや、もちろんそれは、にぎやかであれするのは結構だけれども、寂しくてもいいんだ

よということを、そういうものをなんか、ずっと広めたいようなことがたくさんあります。

私の好きな漫画家に、つげ義春さんという漫画家さんがいらっしやいまして、ご自身も赤面症的なことがありますて、人の前には出ない方なんですけれども、その方は、裏通りとか、寂れた温泉街とか、そういうものに魅力を感じる人なんです。そういうところも、なんかあってもいいなど。そういうのはでも、有名になると困るんだよね。誰も知らないうちに自分だけのものにしたいという、そういうちょっと恐ろしい考えを持っています。

一方で、たくさん繁盛するとか、いろんなものが魅力あるというのは、大変結構だと思うんですけれども、ある一方では、こういう見方をする人間がいるということの一つ分かってください。以上です。

【津吉氏】 木原先生、ありがとうございました。

皆さんから、いろんな視点でご意見、ご感想をいただきましたけれど、松井先生がお話になりました世代の感覚といたしますか、そういったものもあろうかと思うんです。ただ、やはり何かの目標に向かって力を合わせるときに、世代間のギャップというよりも、お互いがお互いを理解し合いながら、何か事業プランを考えていく、非常にいい考えだと思います。

今回の提案につきましては、どうしても部会のメンバーでの、もちろんグループインタビューとかしましたけれども、年寄りの視点で書かれているという感覚と、じゃあ今その世代が、これからの世代のために明るい豊かな新潟にしたいなど、だからこういった方向に行こうよ、こういったことをやってみたらどうだろうという提案だと思いますので、その辺もご理解いただきながら、また次のセッションに移りたいと思います。

高岡さんは、自力で沼垂テラス商店街というものはできてきたと、その辺について、力を入れて皆さんに伝えたいことは何かありますか。

【高岡氏】 本当にありがとうございます。でも、本当に地域の方々が温かく見守ってくれたというのがありまして、先ほど花嫁行列のお話もしたんですけれども、実はご夫婦からご提案をいただきまして、沼垂でぜひ式を挙げてみたいと。私たちは大変困りました。どうしたらいいのと。

でも、そういったときに、周辺のいろんな人からアイデアをいただきまして、じゃあ、伝統の沼垂木遣太鼓で行列したらどうかとか。沼垂も花街だったので、実はこっそり芸妓さんと呼んで踊っていただいたりとか。それはお高いので、ある限られた方々にしか公表はしなかったんですが、そういったすごく華やかな式を挙げることができた。

それも本当にいろんな人からアイデアをいただいて、たくさんの人とコミュニケーションを取ってできた花嫁行列ということです。決して自分たち少ない人数だけの力ではなく、いろんな人のお力を借りて、地域一丸となって頑張ったというところで。だんだん、だんだん沼垂が盛り上がっていく感じというのを、目に見えて体感しているというのが実情で、助けられながら頑張っているというところをお伝えしたいですね。

【津吉氏】 はい、ありがとうございます。

どちらかという、補助金ですとか、そういったことに最初は頼らず、自分たちの頭の中で考え、自分たちで汗を流し、先ほど相樂さんがお話になっていた自力ですよ、自助努力、これで実現された。そして、周りがそれを見て応援をして、今の沼垂テラス商店街というのが少し注目を浴びて、そして動き出しているということだと思います。

相樂さん、その自力、選択と集中、次世代の夢と、先ほど語られましたけれども、ここで一言何か言っておきたいことがありましたら、わずかな時間ですが。

【相樂氏】 黒壁さんとか幾つか似たところを取材したことがあるんだけど、いったい最初はお金が幾らで、高岡さんはコーディネーター料を幾らもらうんだろうかとね。つまり普通だと、やはりそこに助成金がちょっと入って、助走路を付けてあげるわけですよ。それを全部企業サイドで採算性でやったら、かなり難しいんじゃないかなというのがあって、その辺を本当は聞きたいんだけど、ちょっと時間がないから無理かなというのが正直なところです。

【津吉氏】 はい、ありがとうございます。

そうですね、そのテーマでまた掘り下げていくと、また30分、1時間かかるかと思いますが、今日のところはこれで終わらせていただきます。

続きまして、今ほど私ども自治協議会で提案させていただいたものに対してのご意見ご感想だったんですが、お三方がこれからの未来に向けてのまちづくりへ、われわれ自治協からの提案だけでなく、さらに皆さんでお考えになるような、未来に向けたまちづくりへの意見・提言をいただければと思います。一人、5～6分のお時間を差上げます。

それでは松井助教授より、よろしく願いいたします。

【松井氏】 私は、先ほどああいうことを言いましたが、津吉さんがおっしゃるとおりだなと思って、お互いの理解が大事なんだろうなというところが提案の内部になります。要は、お互い理解する前に、まずお互いが何をしているかを共有することが一番大事なのかなと。今、新潟に足りないのは、そういうことなのかなと思っております。

今のこの時点で若い世代が何をやっているのか、先にご覧いただければと思います。

これは西蒲区の岩室です。私たちは、みち Lab.というかたちと、あと都市計画研究室として入っています。岩室の交差点、T字路のところに、KOKAJIYAさんという建物があります。この内部で、西蒲区の農家さんがつくった農作物を使ってヘルシーな食べ物を提供したり、農家との直接のつながりをつくっていたりですとか。これをやっているのは「いわむろや」さんというNPOの方で、30代中盤くらいの方がやっています。

これは私が撮ったのではなく、うちの奥さんが撮ってきたんですけど、西区の内野のほうでコメタクさんというところが、米屋さんを再生して、「内野暮らし研究所」みたいなことをつくるということをやっているらしいです。ここをやっているのは20代前半の女の子です。

次に、シーポイント (Sea Point Niigata) さん。関屋の浜茶屋をシェアオフィスみたいに

変えてやっていращやる。ここの鈴木さんも若い方です。

あとは、中央区に戻って、下のほうで、「旧小澤家住宅周辺の歴史的町並みを考える会」というのがありまして、そこで毎年3回ずつ、湊下町展というのをやっています。これを行っているのは、そこの一番端にいます高須さんという方です。この人も30代くらいの方です。

古町花街では、ちょうちんの掲出をやっています。うちの学生がメインでやっています。古町花街で事務局をしているのは、26歳の子です。

こういうかたちで、20代、30代の方が、まちに関わっているという状況があります。要は、いろいろな所で、こういう活動をやっていると。逆に若い世代は、こういう会で60代の皆さまが考えたことというのは、なかなか知る機会がないというところで、お互いのやっていること、考えを共有するのが一番大事なのかなと。あと、ここに大学が入れると、地元に残ってとなって一番いいのかなと思うんですけども、そういうやり方というのが一番大事なのかなと。

そこをサポートというか、そういうかたちで入っていただくのが行政なのかなと。要は、つなぎ役ですね、そういうところでサポートしていただけると大変ありがたいのかなと考えております。

ほかのまちですと、例えば私は新潟に帰ってくる前に京都におりまして、京都市が100%出資して、外郭団体の「京都市景観・まちづくりセンター」をつくっております。こちらは、京町家を保存するというのと、京都市内いろんなところでまちづくりをやっていますが、それを専門的な視点からコーディネートしていくというようなサポート組織になります。

こういう第三者機関というか、そういうものが全国に増えてきております。新潟市も「まちづくりセンター」という名前の建物がありますけど、組織としてのまちづくりセンターは、練馬が有名だったり世田谷が有名だったりします。

そのほかに、もうちょっと都市デザインとか、都市計画のほうに偏ったというか、その辺を専門にした組織として、アーバンデザインセンターというのも日本全国に増えております。アーバンデザインセンターということで、UDC (Urban Design Center) と呼びます。

最初、東京大学と千葉大学と一緒にやっている、千葉県の柏市に柏の葉キャンパスというのがあるんです。UDCKという、Kは柏 (KASIWA) のKです。そちらでつくり始めたのが始まりです。官民と産の協働で、まちづくりを展開しています。

そのUDCKから、横浜UDCYに広がり、福島県のほうに飛んでUDCT、田村という、なかなか聞いたことがない。相楽さんをご存じだと思います。UDCの郡山ができたりとか、最近では福岡、松山、日本全国にどんどん広がっています。

要するに、われわれは活動していますが、沼垂でどういう活動をしているという細かいことも知らないですし、相楽さんたちが何をやっているかも知らない。そこら辺を情報共有するようなプラットフォームが一番大事なのかなという気がしております。

個々の考え方というのは、もちろん違うわけで、それが全て一緒になるという、そんな世界のほうが気持ち悪いわけですけども、お互いにどういうことをやっているか、お互いの違いを理解するというのが一番大事なのかなと。その上で、折り合いをつけながらやってい

くというのが都市の生活だと思しますので、そういうところをサポートするような、組織というか、プラットフォームをつくれれば、今後のまちづくりはもう一つ先の段階に進むんじゃないかなというのが、私のまちづくりに対する提案というか、提言というか、そういうことになります。

ちょっと延びましたが、すみません。

【津吉氏】 いえ、時間はたっぷりございます。

今ほどお話いただきましたプラットフォームですね、これらも、ただ単に組織がつながればいいという問題でなく、どこかが中心になって、皆さんを取りまとめていくような機関があったらいいなと思いますね。ありがとうございます。

続きまして、高岡さん、よろしく願いいたします。

【高岡氏】 未来に向けたまちづくりへの意見・提言ということで、私は Facebook をやっているんですが、Facebook のお友達で沼垂に二人の娘さんを持つママがいらっしゃって、その方が書いていた文章に私はすごく感動しまして、ちょっとご紹介します。

「自分が子どものころ、まだ沼垂朝市はにぎやかで、日曜日になると、お母さんの野菜の買い物のお手伝いをして、帰りにお菓子を買ってもらうのが楽しみでした。いつか娘たちも大人になったときに、一緒に来た朝市が楽しかった思い出になるといいなあ」と書いてくださったんですね。

この後半に出てくる朝市というのが、今私たちがやっている沼垂テラスの朝市のことです。月に1回、8時から12時、楽しい朝市を開いていて、お子さんと一緒に毎回来てくれるんですね。その朝市のお子さんの印象が、大人になって、「あんな朝市って楽しかったな」と思われたいというような文章だったんですけども、私は非常に感動しました。

皆さんは、自分の生まれ育ったまちや、今住んでいるまちはお好きでしょうか。いつも行き来するルート以外の道や、自分の住んでいるまちをちょっと別ルートで歩いてみたりすることがあるでしょうか。

私は、沼垂生まれ、沼垂育ちです。高校を出て沼垂から離れてしまったんですが、今になって職場で沼垂に携わって、実は沼垂はものすごくディープで面白いということに気がきました。

自分たちが、自分たちのまちをすごく好きになると、それを自慢できるんですね。それを口に出す。SNSなどで発信する。そうすると伝播して、外にすごく大きな発信力になる。

「沼垂（ぬったり）」という地名は、結構いろんなところに出回っています。今は県外から視察もいらっしゃいます。『沼ネコ焼』という名物を出したんですけども、これが今、北は東北、南は宮崎まで旅立っていっています。

本当に沼垂を愛してやまないの、それを発信していたら、結構すごいムーブメントが

起きているという感じです。自分たちのまちのよさを再認識して発信することが、未来につながるのではないかなと思います。

さっき木原先生がお話くださった絵に必ず人や動物を入れる、そうすると花が咲くとおっしゃった言葉がすごく印象的です。確かに沼垂のシャッター通りは、人がいないと本当に寂しかったんですけども、それも寂れた風情で、ノスタルジーで、そこもお薦めなんです。そういう日もあるんですが、結構週末に若い方がいっぱいいらっしゃったりして、人がいて笑顔があって花が咲いている感じ。そういうのを見ると、あまりお金になっていないんですけど、本当によかったなと思っています。

未来もずっとこんな感じで、笑顔でいられたらいいというのが私の意見です。以上です。

【津吉氏】 高岡さん、ありがとうございます。

私が力を入れていただきたかったのは、自力でまちをこれからつくっていくことで、この自力に、ちょっと私もこだわりがございまして。まちづくりをするときに、国や県、市からの補助金、それが運営資源になったりとか、諸団体は結構多いと思うんですね。特に、中心市街地を活性化しようということで大変大きな補助金も中心部には下りてきていますが、今のところ、ぱっとしないような気がします。

ここで私の歌を聞いていただければと思います。

「古町どンドン、どンドンやって、どンドン老舗がつぶれてく。

食の陣、イベント屋台はもうかれど、周辺お店は涙流す」。

なぜかそのようなイベントとか状況があるので、できればその周辺のこと、それぞれのごことは補助金で何かやろうと考えるのではなく、自ら、沼垂テラス商店街さんのように一歩踏み出していくと、まちは変わるんじゃないかなと。ちょっと失礼いたしました。

続きまして、相楽さん、よろしく申し上げます。

【相楽氏】 補助金も使いようだということで、ちょっと後でまたお話ししますけれども。実は私がここで発言していること自体が、皆さん感じていらっしゃるけど、すごい財産だと思っているんです。

つまり、何が言いたいかというと、長岡とか上越とか新発田だと、われわれは発言する機会はなかなか持てないんです。ここは天領の何とか、よそ者を迎え入れる。ここにずっと三人はよそ者ですけど、そういうふうな雰囲気があると、これは財産の一つです。

もう一つは、私は逆に世界に訴えることができる財産かなと思っていたのは、実は福島

からこちらに来ると一番最初に感じたのは、雁木（がんぎ）です。つまり、雁木という個人所有のものをパブリックに使う。これはアーケードともまるっきり違う概念なのです。こういう中間領域を持っているということは、実は世界の中で、最もグレーゾーンを持っているという意味では雪国が唯一の地域なんですね。

これに実は、中間カフェとか、中間ロードとか、中間仕組みとか、いっぱいいくつくんですけども、そこを大事にしていくべきじゃないかなと。そう考えたら、官はやり過ぎないほうがいいかなという部分も実はあります。

私がこれから紹介いたしますのは、実は先ほどいろいろ議論しましたが、今計算してみると、私の余命はたぶん15年になっているんですよ。あと15年しか生きられないと、なっているんで、そうすると、あまり人任せもできないから、自分もやろうぜということが一つあります。

実は、この幾つかのものは、私はやるぞという前提の下にお話しいたします。今、部会からご提案いただきましたスローライフ、4つのSが必要かなと。Slow Life、Social、Sustainable、Share ですね、これがキーワードになるんじゃないかなと思っています。

今、鳥屋野潟では、これに見合ったプラットフォームを立ち上げています。漁協さんとか、地元の協議会、あるいはコミュニティ協議会、土地改良区さん、新潟市南商工振興会、水辺の会と。そこでやっています最も大事なポイントは、私は去年ちょっと市の研究費をいただいて調べてみて、こんなことってあるのかなと思ったら、昭和35年あたりまで実際こういうことをしていたと言うんですね。

下は、今は道路になっていますけれども、清五郎でお茶わんを洗っている女性の姿です。つまり、ぜいたくな資源を、こういうふうに使っていた時代があったわけです。これもそうですね。皆さん、鈴なりになって、この男性の方はネクタイをしているんじゃないですかね。常に晴れの舞台で、これは弁天橋の上が鈴なりになっているところです。

そういう意味で考えますと、ソーシャルビジネスも今、幾つか実験試行しているものもございますし、先ほど言ったような意味で、鳥屋野潟シジミの会というのが立ち上がって、勉強会をスタートしています。

実は、そういう意味で、この資源を使って何かできないかといったときに、皆さんから出資金を集めるということも考えますけども、せつかくだからというので、実は信濃川と佐潟と福島潟というのは、経産省の地域資源登録を取っていたんですね。何で鳥屋野潟は取らないんだろうと。

取ったらどうなるのかというと、中小企業がエントリーして、もし商品サービスをつく

って取れば、3分の2の補助、500万円も付くよと言っているんですね。遠慮する必要はないんじゃないかと。もらえるものはもらって、経産省のホームページに個人商店が出て、頑張れるんだったら、そのお金の上がりの一部をもう一回、潟に落としてもらえばいいんじゃないかと私は豪語しているんです。

実はそれは幾つかわれわれも始めていまして、またこの3年間だけ、こういう実証実験的な舟運事業をやっていますが、最終的には常時これができる環境をどうつくるかというので、今幾つか考えています。

ここから先は、まだ多少ほらっぼいんですけど、ただ私の寿命も考えたら、ほらとも言っていないので、幾つかやろうと思っています。

一つは、カヌーを、できるだけ障がい者も含めて乗れるようなカヌーの環境をどうつくるか。これは現実に、すでにやっているところがたくさんございますし、このぐらいのことはやろうぜということで、来年もやります。

それから、漁協の増井さんたちは、取る漁業から観光漁業、教える漁業を始めています。ですから、皆さんがこういうかたちで、劇的に若い人よりも先に進んだ発想でやっていらっしゃる。

もう一つは、専門学校の人たちとかデザイナーが集まって、ガタッチョロボットというのでやっていて、これを100艘浮かべると。僕は1万艘浮かべたらギネスブックに載るよと言っているんです。汚い潟をきれいにするプロセスそのものをブランドにしまえということで考えています。

それと、ドイツとかオランダを走っているピアバイクというのがあるんです。4輪なんですけども、住人がビールを飲みながら自転車を漕ぐんです。そうすると前に進む。栗原さんに、彼がドイツに行っていると聞いて、これ、本当に動いているのと聞いたら、「動いているよ」と言ったんですね。じゃあ、これの水陸両用版をつくったらどうかと。これはまだ世界にないです。こういうものを、特許を共有してできたらなと思っています。

それから下のほうは教材として、ガタッチョロボットは、これからシステム開発して、ちゃんとおもちゃにするそうです。ですから、こういうこともちゃんとできたらいいなと。

5つ目に挙げましたのは、先ほど岩田さんのほうからスローライフというお話がありましたので、半分潟に入って、半分農業をやって、半分工場に勤めてとか、シェア型のかたちでこういうことが、いろんなかたちで進められたらどうなのかなと。

高岡さんがシェア型で進めていて、いろいろ先生がいらっしゃるので、これを鳥屋野潟に展開したらどうなるのかなとか。われわれは、これから真面目に、ちょっと湖岸をシェ

アできる環境をどうつくるか。今のところ県が全部やっちゃうという雰囲気もあるんだけど、やはり市あたりに頑張ってもらって、われわれがシェアできる空間をたくさんつくってくれれば、多少失敗はあってもこういうことができるんじゃないかと。

実は、もう一個は何だといったときに、これはあまり提案しすぎるのは悪いかと思って、皆さんからご意見をいただきたいと、あとは何ができますかと。自力でやるというのは確かに前提ですが、やはり資金を集めてやると。

イギリスに一度行ったときに、ナショナル・トラストというのは女王陛下より土地を持っているんですが、年間500億円ぐらい持っている。8,000人のスタッフで、3~4万人のボランティアが来るというんですね。本当に驚きました。それには、みんなをつなぐ思いがありますね。鳥屋野潟もそういういい場所にして、みんなで楽しんで使っちゃおうという環境で事業化できたらなと思っております。

【津吉氏】 ありがとうございます。

相楽さんは今、ナショナル・トラスト運動の話をされましたけど、松井先生も結構ナショナル・トラストには関わりをお持ちになったんでしょうか。

【松井氏】 学生時代にバイトをしていたというところですけど、日本ナショナル・トラストは2つありまして、財団と協会というのがあります。自然側は協会のほうが多くやっていて、私は財団のほうをやっていたんですけど。ナショナル・トラストが女王陛下より土地を持っているという話は、そのとおりだなと思って。

イギリスのナショナル・トラストが土地をどうやって増やしていったかというときに、ネプチューン運動か、活動か、というのがありまして、要は軍が使う海岸線を国民で買ってしまおうみたいなことを運動としてやって、そこでイギリスの海岸線をどんどん買っていったというような取り組みがあります。

今の話だと、鳥屋野潟とまったく似ているなというのが正直なところで、相楽さん主導でやっていくのか、楽しみだなと思って見ておりました。

【津吉氏】 ありがとうございました。

自然環境も大事なことだと思います。自然と人間の生活が共生できるのかという部分もなかなか難しい問題と思いますが、ただ、いいものは残し、活用するということが大切だと思っております。

木原先生、一言でもまちづくりについて、イラストのイメージを持って語っていただければと思うんですが。

【木原氏】 さっき僕は、寂しいとこがいいとかね、そんなことを言っちゃったから、ちょっと困ったなと思ったんですけれども。いや、私はもともと、にぎやかなことが好きなもんですから、にぎやかなことが大好きなんですよ。私の絵というのは、だいたいにぎやかな絵なんですわ。

さっきも言いましたけども、人を喜ばせるとか、人が本当にいいなあと思うような感じのものを、色使いといい、構図といい、そういったものを描いています。

その中に、クスッと笑うところを入れるんですよね、いつも。だから、クスッと笑うようなものを、ちょこっ、ちょこっ、ちょこっとして絵の中に忍ばせています。よく見ると分かるんですけど、変なところに変な人がいたりとかね、そういったことがよく私の絵にはあります。それを見つけられる人は、大変いい人だなと思うんですけれども。

そういうふうだね、私の絵というのは、自分だけが楽しむんじゃなくて、よその人のためにつくるんですよということをいつも思って描いています。

あと、いつも私は思うんですけれども、私は九州の佐賀の人間なんです。佐賀からこっちへ来まして、結婚した女房が新潟の人間でありまして、九州へ行かないで新潟へ来ちゃいました。それは、新潟の人が素晴らしい人だったんですね。新潟の空気とか、水とか、そういうものにひかれて来たんですね。

そういう意味では、新潟の地というのは日本地図の中で見ますと、一番真ん中にあるでしょう。だから僕は、勝手に解釈しているんですけども、新潟は日本の中心地だと思っています。歴史的に見ても、いろんなものが発生しているんですね。

新潟というのは、本当にいいところだと思っています。イベントとか催し物とか、そういうものを通じて、人と人がつながっているわけですから、そういうものは、これからもどんどんやってほしいなと考えています。

自分で考えることは、つくり上げることはできません。私も、もう 70 歳ですから。だから、できたものに対して声援を送って、応援をして、後ろからどんどん、「さあ、頑張れ、頑張れ」ということをしたいと考えています。

【津吉氏】 ありがとうございます。

木原先生のイラストを見ていますと、未来をイメージされているんですが、あまりにも

心温まる線で描かれているので、何となくこう未来が、過去の思い出のようなイメージになっていると思うんですけど、非常に心温まるイラストだったと思います。ありがとうございました。

まだ時間があるようなんですが、何か一言ずつ、お三方で言い足りなかったなということがあったら、まだお時間があります。いかがでしょうか。

【松井氏】 何かマイクが回ってきました。私は、ちょっとさっき、世代間のギャップみたいなことを言いましたけど、若い世代は意外と、意外とじゃないですけど、上の世代の方のことをしっかり見ていて、それを参考にしながら、次の自分たちのやり方は何なんだろうというのをすごく考えていると思います。

実際、私は学生時代に、先ほどから何回も出ています萬代橋景観フォーラムというところに、22、23歳のときに参加させていただいた。そのフォーラムを形成していた、もちろん相楽さんがいらっしゃった水辺の会もありましたし、まち遺産の会とか、寺町からの会とか、今も活動されている組織の中に学生が入っていった。

そこには新潟市の都市計画の課長と、まちづくり推進課の課長と、そこら辺のメンバーがみんないて、学生だからといって何か教えるという感じではなく、フラットに話ができるのがすごく経験になったというのがあります。先ほど言いました、まちづくりセンターとかUDCというのも、そういうイメージです。

萬代橋景観フォーラムを見て外に出たら、意外とああいう組織がなかったという経験のもと、新潟に帰ってきたら、それがなくなっていたというのがすごくショッキングなことでした。それを私たちなりに、またつくり直したいという決意を持ってつくったのが、みちLab.という組織になります。行政さんとも絡みながらなんですけれども、いろんな人がフラットに、そういう話をできるような場をつくっていききたいというのが私たちの思いです。

こういう場で発言させていただいたのは大変ありがたい機会だなと思うんですが、要は、いろんな世代の人がいるところで、いろんな意見があるというのが、あらためて分かって、そこを一緒に話していこうというような気持ちを持ってくださる方が一人でもいらっしゃれば、また私たちと一緒にやっていくというような、そんなつながりができていけばいいのかなと。

それが大きくなっていったら、たぶん今回出されていたような未来像というのが少しずつ変わっていくという、そういうことをちょっと、かみつくついでにいろいろ考えた結果、

そういう結論に至ったというのが私の今日の思いです。

【津吉氏】 ありがとうございます。

高岡さん、相楽さん、よろしいですか。1分程度でまとめていただければと思います。

【相楽氏】 じゃあ、手短に。せつかく、まちづくりといった場合に、空き家とか場所の話もあるんですが、これからの世代の子どもたちを巻き込んでやっていくとすると、先ほどガタッチョロボットというのもありましたけど、できたら私が提案したいのは、例えば万代高校のカヌー部というのがあるんですが、全ての高校とか中学校にカヌー部があるわけじゃないんです。ボート部は新潟大学とか、私もボート部にいたので、だいたい分かるんですが、浅野さんもボート協会の会長でいらっしゃいますし。

できれば提案としては、小阿賀野川とか通船川とか鳥屋野潟、ここで子どもたちから高齢者まで含んだ、当然、商店街とか農協の賞品付きのカヌー駅伝をやったらどうかなど。

たぶんカヌー駅伝は、どこでもやっていないんですよね。レースはやっているんですけど、駅伝はやっていないんです。それも多世代でやっているかというのもやっていません。

実はこの間惜しいなと思ったのは、東京でオリンピックの問題になったとき、鳥屋野潟ができるよと言った瞬間に、これで世界に売れるなと思ったけど、鳥屋野潟は選ばれませんでしたね。こういうときに、皆さんからプランが挙がっていれば、もしかしたら可能だったかもしれないと考えると口惜しいですね。千載一遇のチャンス。

やはりそういう絵を木原先生に描いていただいて、オリンピックで鳥屋野潟を使っているぞというのを、夢物語で出していただいたらどうかなど。ちょっと長くなってしまいました。

【津吉氏】 はい、ありがとうございます。

高岡さん、いかがですか。

【高岡氏】 私が自分の紹介のときに言った、歴史・文化・景観を生かして、ここでしか出会えないモノ・ヒト・空間の提供をするという。ぜひ新潟も財産がたっぷりあるところだと思いますので、そんなかたちで、ぜひ新潟の財産を生かしてほしいと思っております。

【津吉氏】 ありがとうございます。

三人のパネラーの皆さんからは、世代やいろんな団体を超えて、情報交換のできるようなプラットフォームで、勉強会等々ができるような、そういった仕組みづくり。そして、やはり自分たちの誇りや財産、宝を発信していこうと。それがまた地域を巻き込んでいける。そして、ナショナル・トラスト運動のように、新潟版ナショナル・トラストみたいなものができてきて、単なる自然保護ではなく、建造物等々にも使っていけるものなので、いわゆる老舗のお店ですとか、古い建物、旧家、こういったものも市民の寄付で何とか維持・保存できるような、そんな仕組みもあっていいのかなと思います。

会津に、保存会というのがありまして、鶴ヶ城のほとりに昔の旧家、土間のある、有名な方々がそこで鶴ヶ城の桜を見ながら酒を飲んだというところを、個人のお菓子屋さんが自己所有されている。自分たちの財産を残そうという、そういった会の集まりで、皆さんが自腹で市民がやっている、そういう運動もあるそうでございます。そういったことも、これからできていったらいいな、なんていう話も、この提案の中にも入れ込めていけるのかなと思います。

それではここで、この5つの提案、そしてパネラーの皆さんからいただいた意見・提言などについて、会場の皆さんからもご意見をいただきたいと思います。どなたかいらっしゃいましたら挙手の上。

はい、そちらのグレーの男性の方。

【会場1】 中央区のおオタと申します。先ほど5つのプランのご説明がありましたけれども、話の流れが、なんか世代間の流れになっていましたけれども、私はプランをつくられた方々と同じ年齢ですけれども、現状認識、それから考え方は違います。だから強い違和感を持っています。と申しますのも、万代に住んでおりますので、やすらぎ堤をよく散歩いたします。今年から萬代橋と八千代橋の間に、「ミズベリング信濃川やすらぎ堤」が始まりました。

そこで感じたことですが、日中は散歩された方なら日々目にしていますのでお分かりかと思いますが、ブルーシートやブラックシートで店を覆っている。これを見たとき、まるで多摩川の河川敷に来たのかと一瞬戸惑いました。

夕方には、歩道脇に出店しているお店から歩行者に向けて、結構な音量で音楽を流していました。今、ミズベリングは終わったんですけれども、あのやすらぎ堤右岸には、飲食店

の椅子や机などが入ったテントが黒いシートに覆われて何張も残っています。これでは、多くの市民の賛同などを得られないと思います。

美しい信濃川や、やすらぎ堤には、上質な空間がよく似合うと思います。騒いだり飲み食いするだけなら、古町や駅前、駅南に行けば、山ほどあります。信濃川は、こういうじゃないと思います。住んでいる人、それから訪れる人、皆から喜んでもらえるような上質な空間づくりと、つくって終わりじゃなくて、それを維持するための仕組みが必要と考えております。いかがお考えでしょうか。

【津吉氏】 ありがとうございます。

やすらぎ堤の、ミズベリングさんの事業がありました。ブルーシートが残っていると、いろいろな問題があると思います。ただ、何か一步を踏み出さなければ、物事というのは動いていかないと思います。そして、皆さん住民の方々と運営される方々と、これからコミュニケーションを取りながら、また上質な右岸の空間づくりですか、そういったものを考えていっていただければいいのかなと思います。

私ども、それに対して、どうこう意見を言う立場にはないので。ただ、私たちも提案した空間として、そういうにぎわいの空間がくれたらなという思いで書かせていただきましたので、ご理解のほうよろしく願いいたします。

ほかにご意見・ご質問とかございましたら。そちら真ん中の。

【会場2】 学校長、ホサカと申します。そもそも論なんだけれども、市民の皆さん、みんなそれぞれ意見やアイデアがあると思うんです。だけど、それを生かす、声を生かすのが案外ないんじゃないかと、機会が。

例えば、市長への手紙だとか、区長への手紙だとか、それから『新潟日報』の「窓」欄ですか、「窓」は文章が上手じゃないと掲載してくれませんから、なかなか難しい。そんなことを考えているとね、いろいろやっぱり、みんななんか言いたいことがあるんだけど、そういう表現する場がないと。

だから、先ほどもちょっと、どこかで話が出たんですけど、インターネットが今盛んな時代ですからSNSを生かして、もうちょっと裾野からみんなの声を集めて、みんなが自由に意見交換やらできる、そういう空間というのか、そういう機会が欲しいなと思うんですよね。

私はアンケートにも書いたんですが、もう一点だけ言わせてもらおうと、古町6番町にマ

マンガの館（新潟市マンガの家）でしたっけ、何か施設があるんですけどね。万代に大きな施設が確かもう一つあるのに、何で2つもあるのかなと。そして、おそらく私の勝手かもしれないませんが、そこにはそんなに人が行っていないんじゃないかと思うんです。

だったら、万代に1カ所にまとめちゃって、今ある古町のマンガ館をむしろ新潟島や古町の歴史文化の資料館にしたらいんじゃないかと思うんですよ。そうすれば、みんな古町に来る可能性も高くなるし、そんなふうになんか思ったもんですからね。

【津吉氏】 ありがとうございます。

市民の皆さんのですね、いろんな方々の声を生かす場所づくりといいますか、これはどんなかたちというか、考えていけばいいと思うんですが、ネットや、またはいろんな会報誌があると思うんです。

中央区自治協議会では、毎月、会合をさせていただいております。ぜひこういった声も、自治協議会の委員からの声だけでなく、市民の皆さまから広く意見とかもいただけるような、そんな場をこれからの自治協議会の運営の仕方として、そこにおられる豊嶋会長に私はお伝えしたいなと思います。ということで、よろしく願いいたします。

ほかにご意見とか、ご質問とか、お持ちの方、いらっしゃいますでしょうか。

まず、年齢的に若い方に行きましょう。すみません、そちらの黒眼鏡の方。

【会場3】 新潟大学都市計画研究室の沢畑と申します。本日は貴重なお話、ありがとうございました。

ちょうど20代前半ということで、僕にとってはおじいちゃんぐらいの世代の方々のお話がメインだったので、孫がちょっと、なんか粋がって言っているなぐらいで構わないんですが、ちょっとご意見したいと思ひまして。

提案のほうで、松井先生ともちょっとかぶる部分ではあったんですが、萬代橋のモニュメントの話に関しては、ちょっと何を言っているのかなというのが。今まで新潟で活躍されていた先輩方が、国の重要文化財として守っていかうとしたところに、そういうものを建てて音楽を流せば若者が集まるのかというのには、まあ僕だったら行かないかなあというのが正直なところで。あくまでも今回は、まだ提案の段階だと思うので、今後さらにブラッシュアップして行って、よりよい案になっていったらうれしいなというのが一つと。

あと、古町のほうなんですけど、もっと面白いところというか、去年実際に下（しも）のほうで学校の授業等で関わらせていただいたときに、すごく魅力があるまちだというの

が、すごく僕の中での印象です。もともと僕は新潟出身じゃないんですけど、そういう人に対しても新潟の古町というのは面白いところだと思ったのに対して、そういう歴史とか文化とかが感じられるような場所が選ばれていなかったというのは、ちょっと残念だったので、その辺を考慮して、さらによい案になっていったらなと思っています。

ちょっと、たわ言でしたが、以上にさせていただきます。ありがとうございます。

【津吉氏】 ありがとうございます。

今日、自治協議会の部会からご提案させていただいたのは、あくまでも提案でございます。それと、委員会メンバーが考えてきた提案でございますので、これが全てではありません。あくまでも何かをするための手段と思っていただけたらいいと思うので。

その手段というのは、たくさんあろうと思います。それをどう選択していくかは、これから市民の皆さん、そして行政の皆さんとで考えていく場があれば、この提案事項だけでなく、夢に向かっていけるんじゃないかと思うんで、その辺はご理解いただきたいと思います。

ちなみに、古町の面白いところはどこになりますか。

【会場3】 個人的には、去年、下町によく関わらせていただいていたので、下町の歴史だったり勉強していく中で、例えば堀が昔ここにあつてとかいうお話を伺って、それがなくなってしまう歴史だったりというのも、実際、聞かなければ、県外の人間にとっては分からない部分だったりするのに対して、そういうところをもっと考えていったりとか。

今は実際に使われていない場所に対して、若い実業家の方たちが、実際そこに入ってお店を開いたりというところが結構ある。そのところに対しての市の補助とかというのが、実際に整備されているというのは理解しているので、もっとそこに、もうちょっとアクションを加えていくほうがいいのかというのが個人的な、まだちょっと考えきれていない部分ではあるんですが意見になります。

【津吉氏】 ありがとうございます。

新潟の古町の中心部の魅力を思っただけというのは、本当に大変ありがたいことだなと思います。

もうお一方、よろしいですか。はい、どうぞ。

【会場4】 県外から来ました。東京のほうから今日、新幹線に乗ってまいったんですが、新潟のまちというのはあまり知りません。『新潟ブルース』でいう萬代橋だとか、こらしかイメージがないんです。

新潟の駅を降りまして、萬代橋方向に向かってこちらに来たんですが、どこが萬代橋かなということで興味を持ってまいりました。萬代橋を渡ったわけですが、あ、これが萬代橋かと。ああ、これが初めて見る萬代橋かなということで見たわけなんです。

先ほど学生さんが、古いまちを紹介したいとおっしゃいました。京都のまちはそうです。

私は、ちょっと建築のほうに関係しているんですが、日本の建築というのはスクラップ・アンド・ビルドというか、壊して建てるのが主になっています。

とにかく今、建築は木造ではなくて、コンクリート造りがはやっているんですね。木造がだんだん、だんだんなくなってきました。それを壊してまで新しいものをつくってやる必要があるかと。私はないと思います。ですから、今ここにある、新潟で歴史のある、本当に古いものをみんなに知ってもらう、これが一番大事じゃないかなと。

地域の活性化だとか、もろもろ言いますけれども、県外から来る人を、初めて来たときに、「あ、これ新潟、すごいね」ということで、また来ようということをさせないと、だんだん、だんだん寂れていくと思うんです。

ですから、古いところを本当に大事にしながら、これをもっともっと、みんなでアピールをして、「みんな、新潟にいらっしゃい」と、「古いところを見てくれ」と。

やっぱり古いところを残していかないと、これはよくないと思う。壊してばかりじゃ歴史は残らない。日本というのは、歴史をつくってきたわれわれのDNAがありますから、これをちゃんと継承しないと一番いけないことだと、私は建築をつくりながら思っています。

今盛んに、木に返ろうとしている。われわれの会社も木を使ってやろうとしておりますが、日本の建物というのは木でできている文化です。これが未来永劫ずっと続いていかないといけないなど。古い木造建築をつくる技術者もいなくなっています。

今、伊勢神宮の式年遷宮でいろいろ歴史・技術を継承していますが、ああいうとこだけに残したら、ちょっといかんかなと。やはりいろんな昔皆さんがやってきた、皆さんというか、その先輩たちがやってきたものを残していかないと、まちというのは生きていかないと。

ノスタルジーと先ほど木原先生もおっしゃいましたが、これは非常に人間として一番、

年を取ってくると、だんだん、だんだん、本当にノスタルジーになってくるんです。ですから、そこをやはり一番主力に考えながら、この会をもっともっと、これは何回目か分かりませんが、本当にここだけじゃなくて広く広めてもらいたいなど。私は、この会に参加させていただいて、今日そういうふうに思いました。

【津吉氏】 どうも大変貴重なご意見をいただきまして、ありがとうございます。東京からわざわざおいでいただきました。

新潟というまちは、比較的古いものといえますか、昔からのものを壊して作り上げてきた歴史がございます。西堀、東堀、堀のまちだったものが、堀を全て埋めて、モータリゼーションの成長とともに車社会になっていく。それで堀が埋められ、そして、昔ながらの建物というのは新しい建物に変わり。

県庁もそうですね。旧県庁は、明治時代にできた、松山の県庁と同じような形なんです。ドイツの建築家のデザインで、あれも残しておけば、当時の趣も出たと思います。

さまざまな部分で新潟というまちは、どちらかというところ、自分たちの歴史のそういった建造物や環境をちょっと取り壊しすぎて、今、観光の財産になる目玉がなくなっているのかなという反省もあると思います。そういったことも、これからのまちづくりの中に入れていければいいのかなと思っております。

そろそろ時間のほうも差し迫っております。本日、皆さまにご提案させていただきました5つの提案がございます。これはあくまでも、一つのモデルだと思っていただきまして。地域の活性化を考えたときに、一番最初に岩田委員の発表の中にありましたが、人が住みたいと思うまち、生活の糧である働く場所があるまち、そして観光やショッピング、サービスを受けられる、そんな訪れたいまち、今のお話にもありました。そういったまちにすることが、この3つの要素が大切なんだろうと思います。

政策的な表現をしますと、住環境の整備、雇用機会の創出、観光振興、交流人口の増加ということになるかと思えます。

これから私たちの住む新潟が、豊かで活気のあるまちとして持続的にあるためには、この3つの要素を考えながら、今日の提案以外にもいろんな提案を交えながら進めていくことが大切なのかなと思います。そして、住みたい、働きたい、訪れたいまちにするためには、行政、民間、そして住民の皆さんが深い絆で結び付きながら取り組んでいかないと成し得ないのかなと思っております。

どんな未来になるか分かりませんが、歴史を振り返ることによって、そして私た

ちが今、目の前にしている事実、これらの中から近未来は予測していけるものだと思っております。現在は過去の選択の結果です。私たちの未来は、現在の私たちの選択によって未来はつくられていきます。この瞬間、どんな選択を皆さんがするかによって、これからの新潟というまちもいいまちになっていくんだらう。さらに、いいまちになっていくんだらうなと思っております。

ぜひ本日のフォーラム、「未来に備えた地域のにぎわい創出・活性化フォーラム」、ここにおいでになりました皆さんが、その第一歩を踏み出していただける機会というふうにしていただければ大変助かります。そして、今日の提案が、その選択の一助となれば幸いですというふうに思っております。

それでは本日、木原先生、パネラーの皆さん、ありがとうございました。会場の皆さんも長い間、お時間をお付き合いいただきましてありがとうございました。

これにて、パネルディスカッションを終了させていただきます。どうもありがとうございました。



5. 閉会あいさつ

中央区自治協議会「拠点と賑わいのまち部会」副座長 佐藤 豊 氏



皆さん、大変長時間にわたり、ご参加いただきましてありがとうございます。

今日はあいにくの雨でしたが、大勢の皆さんから参加していただきましたことを厚く御礼申し上げます。また、フォーラムを開催するにあたり、各諸団体の皆さまには大変お世話になりました。いろいろ、ご指導・ご鞭撻いただきましたことを、この場をお借りして厚く御礼申し上げます。本当にありがとうございます。

私も、この拠点と賑わいのまち部会に携わり4年になります。今年で終わろうと思っています。皆さま方からいろいろなご意見をちょうだいしました。私ども11名の部員の中で70近い提案事項がありました。その中から、今日発表させていただいた5つの提案事項は、皆さん、いかがでしたでしょうか。ありがとうございます。概ね、皆さんから賛同していただけだと思っています。

大変長時間にわたりましてありがとうございます。これで閉会とさせていただきます。

6. アンケート集計結果

1) アンケートの実施目的

今回のフォーラムに参加した方を対象として、テーマの「未来に備えた地域のにぎわい創出・活性化」についてどのように感じたかを把握し、また、これからの中央区のにぎわい創出や活性化にどのような意見をもっているかを集約することにより、今後のまちづくりの提案に活かしていくことを目的とする。

2) アンケート実施概要

■調査実施日：平成28年11月27日（日）

“なつかしき 未来の街”

未来に備えた地域のにぎわい創出・活性化フォーラム開催時

■配布対象者：同フォーラム聴講者 85名

■回収枚数：63枚

■回収率：74%

3) アンケート設問

■設問選択：参加動機について
フォーラムの感想について

■記述設問：フォーラムの感想についての理由
中央区のにぎわい創出や活性化のあり方、望むこと

■回答者の属性：性別、年齢、住まい

未来に備えた地域のにぎわい創出・活性化 フォーラム アンケート

本日まで参加いただいたご感想、お気づきになったことなどを、お聞かせください。

(1) このフォーラムを何で知りましたか？(該当するすべてに○)

- | | | |
|---------------|----------------|------------|
| ① チラシ | ② 自治協だより | ③ コミ協からの紹介 |
| ④ 自治協委員からの紹介 | ⑤ 市の広報(中央区だより) | |
| ⑥ 市のホームページ | ⑦ 新聞等のマスコミ報道 | |
| ⑧ 友人・知人等からの紹介 | ⑨ その他 | |
| () | | |

(2) 本日参加された感想をお聞かせください。(それぞれ1つだけに○)

- | | | |
|----------------|-------------|-------------|
| ① 大変よかった | ② よかった | ③ どちらともいえない |
| ④ あまり参考にならなかった | ⑤ 参考にならなかった | |

(3) 上記(2)の理由をお書きください。

(4) これからの中央区のにぎわい創出や活性化のあり方、望むことなど、ご自由にお書き下さい。

<hr/> <hr/> <hr/> <hr/> <hr/>

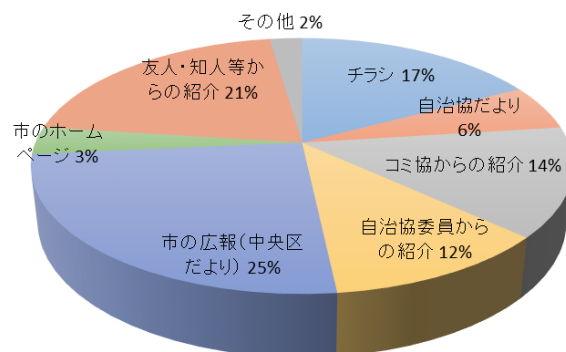
(5) 最後にあなたのことをお聞かせください。(それぞれ1つだけに○)

■ 性別	① 男性	② 女性		
■ 年代	① 10~20代	② 30~40代	③ 50~60代	④ 70代以上
■ お住まい	① 中央区内	② 中央区以外の新潟市内	③ 新潟市外	

アンケート結果

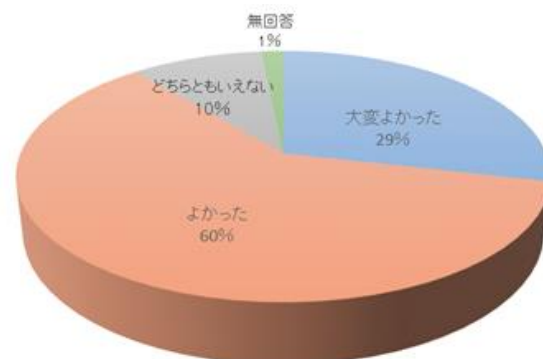
(1) このアンケートを何で知りましたか？（該当するすべてに○）

選択項目	件数	%
1 チラシ	15	17%
2 自治協だより	5	6%
3 コミ協からの紹介	12	14%
4 自治協委員からの紹介	10	12%
5 市の広報(中央区だより)	22	25%
6 市のホームページ	3	3%
7 新聞等のマスコミ報道	0	0%
8 友人・知人等からの紹介	18	21%
9 その他	2	2%
合計	87	100%



(2) 本日参加された感想をお聞かせください（1つだけに○）

選択項目	件数	%
1 大変よかった	18	29%
2 よかった	38	60%
3 どちらともいえない	6	10%
4 あまり参考にならなかった	0	0%
5 参考にならなかった	0	0%
無回答	1	1%
合計	63	100%



(3) 上記(2)の理由をお書きください。

- ◇空家・空地の問題は、固定資産税の現状に合っていないことで手を付けられない状況である。本会を通し、国会等に強く、税制改正の論議を進めてもらうことを提言してもらいたい。
- ◇都市となった新潟市は静かな街でいるわけにはいかない。古町・本町地区の活性化は重要。古町地区・本町地区の活性化策がない（実行できない）中、良い提案があったと思う。
- ◇松井先生の幅広い話、高岡さんの具体的な話が勉強になりました。
- ◇パネリストによるお話し等を聞くにつけ、地域のにぎわいをいかに創出し活性化するかを十分に理解することができました。
- ◇いろいろの視点から新潟の街づくりを考え提案されているのに感銘を受けた。それに対し、反対意見も聞いた。
- ◇住み慣れた地の活性化動きが聞けて楽しかった。
- ◇会合の進め方がよかった。

- ◇木原四郎さんに会えてよかったです。生の声を聞いてうれしかったです。
- ◇若いパネラーの意見も 60 代以上の方の提案もそれぞれ考えるところがあり、新潟市を活性化していくのはおもしろいと思いました。
- ◇提案は押しつけでよいと思う。それをより現実にしていくためのフォーラムと思いました。
- ◇今後の活動の参考になった（パネルディスカッション）
- ◇地域活性化についてパネリストの別の角度からの意見が聞けて面白かった。
- ◇提案に対してディスカッションが具体的で良かったです。若い人たちの提案と実践を聞いて市のかかり方がこれからの新潟の発展になると思います。もっと発信力を強くしてほしいです。
- ◇ノスタルジックの話があり、「ソウ、ソウ、ソウ！」と思いましたが、やはり経済面、ニギワイを取り戻せるとなおいいですね。
- ◇街づくりの構想について知ることができたこと。老若男女が力を合わせれば考えて行ける気にさせられた。
- ◇中央区内の自治会内の環境をどうするのか考えるのが必要と思いました。
- ◇とても楽しさも含めて、ためになりました。ありがとうございました。
- ◇5つの点にしぼって考えた事が良い。
- ◇行政の街づくりが、身近なビジョンに思えた。良くまとめてあります！！
- ◇木原四郎さんの話が「ごまかし」がなく、ほのぼのとして本質の見える話で良かったです。
- ◇木原四郎さんのお話、写真は良かった。街づくりの本質も感じた。
- ◇いろんな方の自由な意見を伺えた。
- ◇人を喜ばせることをモットーとして話をされていたので！
- ◇諸々の観点からの話、参考になりました。
- ◇提案報告は、ご自分の言葉として端的によくまとめられており、大変聞き易かったです。ここまでまとめられるまでに重ねてこられた苦労が良く分かるものでした。時間があっという間に過ぎた感じでした。次回も継続的にこのような会が開かれることを願っています。
- ◇木原さんの絵に感動しました。4,5年前に奥只見湖で遊覧船にご一緒に、テレビに出たことが思い出に残っております。ありがとうございました。
- ◇住んでいる地域を冷静に見つめる機会を得られて良かった。新潟の良さを工夫して発信できたら良いと思う。
- ◇木原さんのイラストが良かったです。パネラーの皆さんのお話も（特に高岡さん）。
- ◇短い時間の中での提案、内容 とぼしかった。
- ◇フォーラムが大変おもしろかった。

- ◇提案、パネリストとも個性があり、いろいろな芽を感じた。
- ◇木原四郎さんのイラストとお話が良かった
- ◇様々な視点からの意見が聞けて良かった。
- ◇コーディネーター、パネリストの方々からの話は面白く、勉強になった。しかし、会場の人へ話があまり振られなかったのは、どうかと思う。
- ◇個人的には楽しかったが、このフォーラムを通じて次にどうつながるのか気になる。
- ◇新潟市を良くする5案と、パネリストの考えが面白かった。
- ◇(Good) 以前から親しんでいたイラストの木原さんのお話が聞けて、木原さんの人となりも分かり、良かったです。
- ◇(No Good) 部会からの提案は手元に資料があると、もっと分かりやすかったのではないのでしょうか。(「5つ」を項目にして1枚の紙にする。)
- ◇新潟でまちづくりを進める人々を知ることができた。世代ごとに異なった取り組みがあるように感じられた。
- ◇今迄、関心のなかった事を自治協の方々のお話で少し理解出来ました。今後も続けて下さい。
- ◇新しい視点での街づくりの提案を聞くことができた。
- ◇高齢者になって、空き家と同じ先決ですが、万代橋の整備には大賛成です。寄付には賛成します。
- ◇まちを考え話し合うきっかけとして。
- ◇市民の声、地域プレーヤーの声を聞いた。
- ◇いろいろな人から様々な視点のお話を聞くことができた。
- ◇いろいろな立場の方のご意見を聞くことができた。
- ◇参考になるヒントをもらったようでした。
- ◇知らなかった事もなかった。
- ◇講演…番組の裏ばなし パネルディスカッション…若い世代のお話を聞いてよかった。
- ◇提案報告…提案内容が聞けてよかった。
- ◇部会提案は大変良かったが、木原さんのお話は楽しめたが「基調講演」とは異なるものを感じた。
- ◇汗と知恵と努力の提案に敬服です。
- ◇外国人の講演会を聞いたかった。
- ◇問題提起のきっかけになりそう。
- ◇個々の提案をさらに深掘りし実行可能な事から取り組んでいただきたい。
- ◇提案報告が何か夢のような絵空事に見えてきて空しい。もっと現実的な具体的なものが出てきてもよいと思うのだが…。会場に来た人達の意見も聞いて欲しかった。

◇古き町と新しい町をつなげる考え方には、未来を感じる。

◇新潟のネガティブをポジティブに変えるためにも5つのプランは素晴らしい。

◇木原さんの楽しい話を聞きホッとしました。10年を創造し、作り上げた未来への目、分かりやすく説明されました。これからもお願いします。

(4) これからの中央区のにぎわい創出や活性化のあり方、望むことなど、ご自由にお書き下さい。

◇観光業者に聞いた話として「中心部に観光バスを入れるにも駐車場所がない」との答え。提案として、万代バスセンター向かいの国交省の空地（国有地）を払下げ、もしくは国交省管理の駐車場にすることで利便性の高いハードな取り組みとしてみる事が今後のプランが画かれると思います。

◇新潟の本来の湊を活かせる街は無理なのかな～？

◇中央区自治協議会の皆様のさらなるご努力に大いなる期待をしていますので頑張ってもらいたいと思います。

◇やはり若者の意見も取り入れて、行政へ提案すべきだと思う、市報にいがた等に入れて市民全体にアピールすべき。

◇中央区役所がNEXT21に移り、大和跡地には分館、白山庁舎が移ってきます。1,000名を超える役所職員と2,800名を超える市民が古町に集まります。食事施設の検討、駐輪駐車関係、イベント施設招致の検討が急務です。

◇地域の力を信じ、力強く一歩前に入る勇気をみんなで持ってください。

◇万代新潟駅前地区より人があまり通らなくさびしく思います。ネクストに市役所が移るのは本当ですか？買い物は万代駅前がほとんどです。

◇行政主導と市民主導の両輪で進めればよいと思いました。エネルギーある高齢の方々の“力”をどのように使っていくかで、にぎわいもうまれるので、提案を具体化できるのは行政だと思いました。

◇中央区の中心としてはやはり古町の活性化、集客が一番のポイントになると思います。NEXT、大和跡地再開発後の街づくりが今後のにぎわいに直轄していると思いますので、ぜひ市と連携した取り組みが必要と考えます。

◇古町の活性化は大事だと思うが、なかなか具体化した案が出てこない。若い人達を巻き込んで自発的な発展をしていく案を考えてほしい。今回の提案、自治協議会にも若い人達を入れてほしい。

◇古町でイベントをいろいろやっては？例：綱引き、幼児のダンス、小学生の学校発表会、中学生の

ボランティア（掃除など）、明るい音楽を流す。

◇イベント重視ではなく、どんな街にしたいか、どうありたいかということが大切。新潟市に来たらこれを、とかここが、という場所がないと思う。駐車場問題（バスやタクシー）を解決する必要がある。

◇5つの課題について、具体的にどのようなプロセスで取り組んで行くのか市民に向けて提案して欲しいと思いました。

◇かつてのにぎわいをとりもどしてほしい。皆様がいろいろ考え取り組まれていることがわかり、良かったです。

◇（隣など）地区同士のプライドの衝突緩和のためのマニュアル化（リーフレット）などして欲しいです。

◇①古町までのバスの便が悪く、行く機会がなくなった。

②NEXT21のあたりの駐車場を開放してもらえれば、行くことが多くなると思われる。

③やすらぎ堤の右岸側に席が出ておりますが、環境的に良くなく、やめてほしい。

◇万代橋のライトUP（市の予算）を継続して欲しい。

◇無料駐車場の確保(交通拡大)、高齢者向け街道の特化(街,遊,働,医)～古町を中心とするエリア

①ホームページを持つこと（通販など）

②古町で働く人が古町に住む（める） たぶん地主の問題かなと思ったりしています。

◇「ミズベリング信濃川」はブルーシートやブラックシートに覆われた店が多いなど、快適とはほど遠い現状にあります。住んでいる人、訪れる人皆から喜んでもらえるような「上質な空間作り」とそれを維持する仕組みが必要と考えます。

◇自治協議会として、どんどん意見・提案をして下さい。市が設置した組織ですが、自ら意思を持ち成長していったいいのではないのでしょうか。

◇古町中心街メインを発展としないで税金を使っても昔の古町の情緒とにぎわいが取り戻せるように活性化してほしいと願います。空き家が多すぎる。60歳以上にやさしいシステムを。スローライフも良いのでは。お金が困るのではなく、心が優しくなる活性化も！

◇古き良き新潟を活かした町づくりに期待しています。少しでも」そのお力になれば幸いです。

今回は映写会と思って参加しましたら、全く別で驚きました。でも興味のあるフォーラムで面白く思いました。私は観光面でもう少し新潟をアピールする必要があると思う。例えば公園で、福島潟、鳥屋野潟、上せき潟など整備、環境を考えて人々が集まれる場に。交通バスを運行できたらいいと思う（車に乗れない潟のために）皆様のご活躍を期待しております。

◇大学生、専門学校生も地域に関わってもらえる機会があると良い。責任感を持って関わられる人が出

てくれると良い。区長、市長さんの反応が聞きたかった。

◇エリアの役割があると思います。その役割が充実することで新潟全市をひっばっていけるのではないかな。

◇自助&連携 ←資金

◇自分たちの考える活性化を話し合う機会があるといいと思う。

◇現在、新潟にはストックが多くあるが、その利用法・活性化があいまいになっており、その整備手法も最低な気がする。ハード整備ではストックの活用法を。そしてソフト面の設備がもっと検討されるべきだと思う。

◇古町には歴史文化が多く残っています。これは、いつの世代にも残せる大切な資産として活用する提案が必要だと思います。

◇5案を聞いて考えたことは、新潟の良い所が見えているのかなと言うことです。

◇何かを提案、あるいは実践すると考え方の違う人からの反発がある、これはどうしても仕方のないことですね。今回のディスカッションで感じました。今回の提案をこれで終わりにするのではなく他の意見を取り入れつつ、次回・次世代の自治協議会のテーマにするなど、市の行政や市民活動につなげて行ってほしいと思いました。

◇まちづくり団体同士での取りまとめの場があるとよいと思った。また、大学生など若い世代が自治協に参加するようになるとまた面白い議論ができると感じた。

◇古町の地下街の活性化が望まれます。

◇衣食住は重要です。高齢者が生活出来る環境で、小さな店も必要です。

◇今日の提案をゴールとせず、このようなフォーラムやワークショップを重ねて、合意形成を目指していただきたい

◇若い人の挑戦を年長者がサポートする環境をつくってほしい。発言の機会をもっと作ってほしい。

◇誰かに任せるとはではなく、自ら考え、自ら動いていく必要があると感じた。

◇自治協の部会の若い方にも参加してもらい、ものごとを考えていくと、次の世代にスムーズにつながっていけるのではないのでしょうか？

◇神社仏閣 36 巡りツアーができれば参加したいと思います。

◇提案を若い世代とともに具体的に実現してほしい。

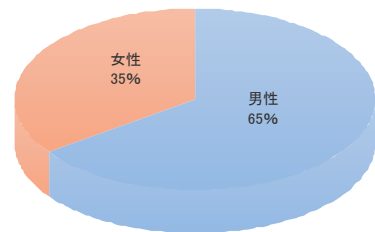
◇新潟市の中核として真ににぎわうまちになるよう、期待しています。高齢者の雇用など興味深い提案があったのが、参加してよかったと感じました。

◇ずい分前にスポーツと文化都市宣言(?)をしているはずですが。

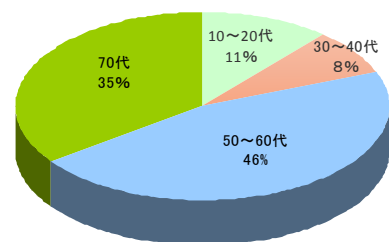
- ◇文化とは歴史（全ての分野）の上に良き文化、？な文化が今在ります。これからの新潟市中央区の文化を担うための諸計画、中央区の文化とは？ ぶれずにさらに充実へ。
- ◇住民の声、要望に対する答えるようなシステムが必要ではないか？ 住民同士の意見や情報交換が出来るようにしたら。冒頭の件については“市民への手紙”“区長への手紙”だけでは不十分である。
- ◇古町再生には“東急ハンズ”のような魅力的な施設・店舗がないと人は集まらない。古町6にある市のマンガ資料館を万代に集約し、その跡地には新潟島や古町の歴史資料展示館にすべきだ。
- ◇古町・本町での催しを多く行って欲しい。（花柳界の方から、古町にて三味線、小唄などの振舞をおこなってもらいたい。）
- ◇行政は任意団体等にもっと耳を傾けてもらいたい。そのことで実現に近づけられるのではないでしょうか。※リーフレットを全員に配布できないでいるのは？ 中央区を悔しくも表しているようである。
- ◇5つのプランの実現に向け、これから自治協の部会の活動が望まれる。
- ◇食・文化・街の中心、古町が寂しく、かつての明るさと活気が失われている。住人として行政と街づくりの皆さんが積極的に取り組んでももらいたい。「明るく未来の街へ」街の機能を変える。これからですね。未来の8つの提案、考えました。

(5) 最後にあなたのことをお聞かせください。（それぞれ1つだけに○）

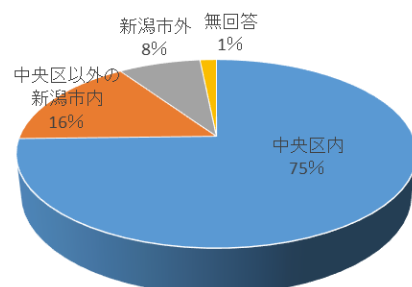
選択項目		件数	%
1	男性	41	65%
2	女性	22	35%
3	無回答	0	0%
合計		63	100%



選択項目		件数	%
1	10～20代	7	11%
2	30～40代	5	8%
3	50～60代	29	46%
4	70代	22	35%
合計		63	100%



選択項目		件数	%
1	中央区内	47	75%
2	中央区以外の新潟市内	10	16%
3	新潟市外	5	8%
4	無回答	1	1%
合計		63	100%



7. おわりに

未来に備えた地域の賑わい創出・活性化フォーラムを振り返って

第5期中央区自治協議会「拠点と賑わいのまち部会」では、自治協提案事業として「未来に備えた地域の賑わい創出・活性化」をテーマに調査・研究を行い、最終的に部会がまとめた活性化案をフォーラムで提案することを目標に取り組んでまいりました。

平成27年度は、区（市）民24名が参加してグループインタビュー（グループ単位での対話形式）を実施し、まちづくりについて部会で検討した12の仮設案について熱く語っていただき、結果を報告書にまとめました。

平成28年度は、グループインタビューの結果を検証し、さらに関係者への聴き取り調査を経て、最終的に5つの未来プランにまとめ、無事にフォーラムで発表しました。

フォーラムの基調講演では、NHKきらっと新潟 イラスト紀行に出演している、旅するイラストレーター・木原四郎氏より旅で出会った様々な地域について含蓄ある、ほのぼのとしたお話をいただき、会場全体が笑いと和やかな雰囲気になりました。また5つの未来プランを基に作成した木原氏オリジナル絵はがきを来場者へ差し上げ、大変好評をいただきました。

パネルディスカッションでは、未来プランとして提案した「古町の歴史・文化」「地域の未来づくり」「鳥屋野潟の未来」などについて、パネリストの皆さまから率直な論評をいただき、会場からも多数の意見が出るなど盛り上げりを見せました。

参加者アンケートの結果では、フォーラムの感想として「良かった」の意見が非常に多く、今後の取組みに対する期待を窺い知ることができました。少子高齢化、人口減少社会が到来する中、当部会のまとめた5つの未来プランが、今後のまちづくりの一翼を担っていただけると切に願います。

最後に、当部会委員一同、2年間にわたり手探り状態で提案事業に取り組んできました。中央区の賑わい創出や活性化について実現可能なものから夢物語的なものまで実に幅広く真剣に考え、議論し、曲がりなりにもフォーラムを通じて一つの形を残すことができました。数々のご協力をいただきました関係者の皆様に衷心より感謝申し上げます。

（拠点と賑わいのまち部会 座長 浅野昌禧）

【部会メンバー】

- ・浅野 昌禧（座長）
 - ・佐藤 豊（副座長）
 - ・清水 大三郎
 - ・廣瀬 隆之
 - ・伊藤 肇
 - ・竹田 良性
 - ・本間 健二
 - ・津吉 孝司
 - ・李 在憶
 - ・岩田 桂
 - ・肥田野 正明
- （事務局：新潟市中央区役所地域課）